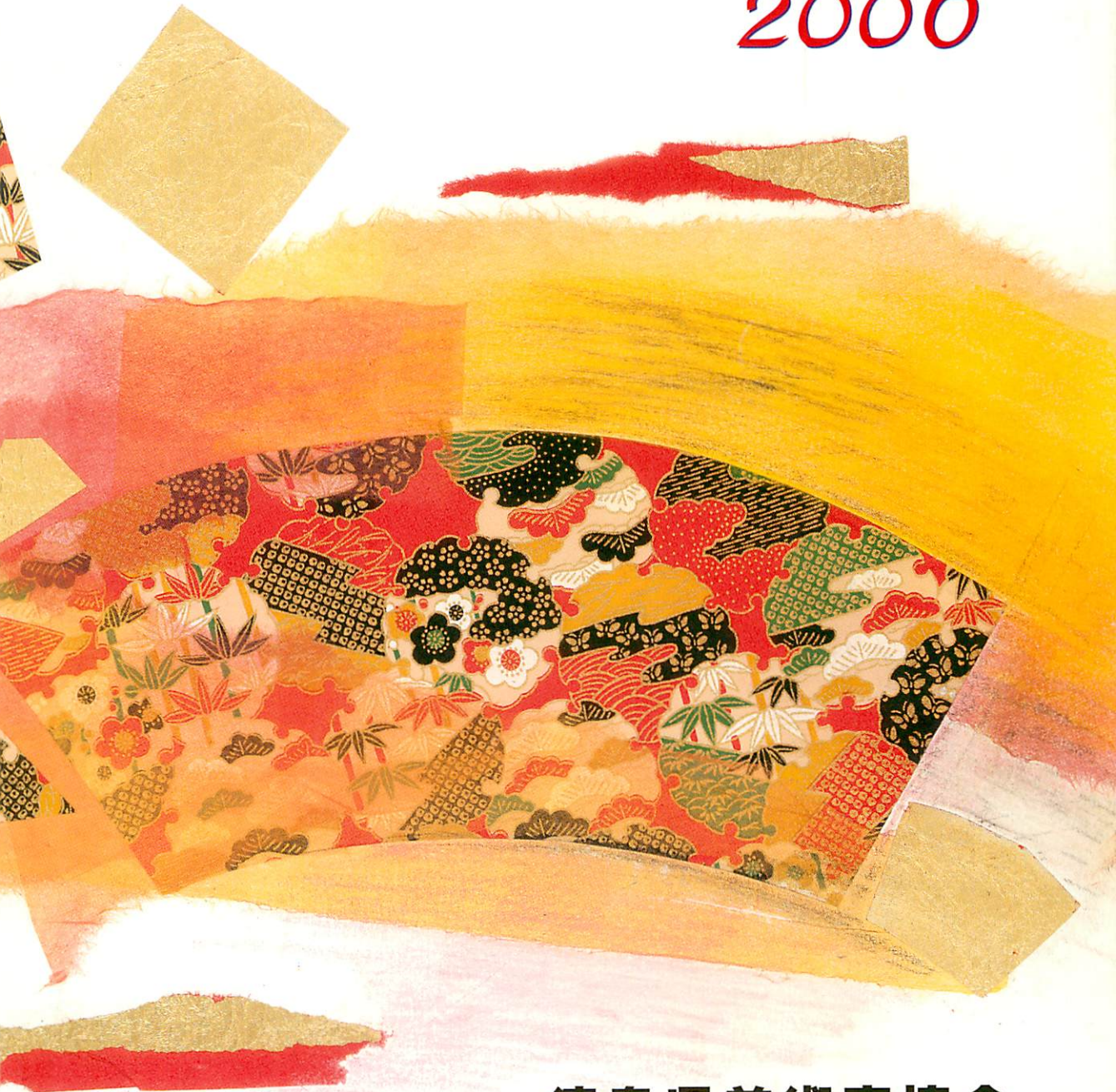


# 美術年報

2006



徳島県美術家協会

# 目 次

はじめに .....	徳島県美術家協会長 佐野 比呂志 .....	1	
徳島県美術家協会規約 .....		3	
平成16年度事業報告 .....		4	
役員名簿(平成17・18年度) .....		7	
徳島県美術展開催運営要項 .....		13	
第60回記念県展記録 .....		17	
第60回記念県美術展出品・入選等状況 .....		25	
徳島県美術展審査員一覧 .....		26	
第14回放美展記録 .....		30	
各部記録(平成17年度)			
・日本画部 .....	部会長 西野 和男 .....	36	
・洋画部 .....	部会長 榊田 務 .....	38	
・写真部 .....	部会長 楠潤 魏 .....	47	
・彫刻部 .....	部会長 松永 勉 .....	53	
・美術工芸部 .....	部会長 山上 馨 .....	57	
・書道部 .....	部会長 上田 溪水 .....	64	
・デザイン部 .....	部会長 坂本三千一 .....	70	
県展60回記念展を迎えて .....		74	
会員名簿			
・日本画部 .....	88	・美術工芸部 .....	97
・洋画部 .....	89	・書道部 .....	98
・写真部 .....	93	・デザイン部 .....	109
・彫刻部 .....	96		
第60回記念徳島県美術展(県展)公募規定 .....			111
第60回記念県美術展特別・招待・無鑑査・賛助出品者名 .....			112

あとがき

## はじめに

第14回放美展が春の公募展として5月4日から8日までの5日間、県郷土文化会館で開催された。展示されたのは日本画、洋画、写真、彫刻、美術工芸、書道、デザインの7部門の放美賞7点、優秀賞49点、入選568点の計624点と、審査員、無鑑査など特別出品66点。応募点数も昨年よりふえて1,228点となり、県美術界にとっても大変よろこばしいことであり、将来更に飛躍を続けることが期待できる。

第60回記念県美術展は、11月12日から二期に分けて県郷土文化会館で開かれた。一期（12日～20日）は日本画、洋画、写真、彫刻、美術工芸、デザインの6部門、二期（22日～29日）は書道が展示された。作品の応募数は2,388点、863点が入賞入選。展示数は特別出品、招待、無鑑査、賛助出品を含め985点となった。各部門の最も優れた作品に贈られる記念大賞は、日本画、洋画、彫刻、デザインの4部門で、20代と30代が獲得。新鋭、若手と中堅の活躍が目立った。各部門の審査員からも、全体的にレベルも高く、豊かな感性がよく現れて、楽しく審査することができたと評された。また芸術が人の心を映す鏡とすれば、人間としての豊穡な精神をまず鍛えなければならないと教えられた。作家の方も充分自信をもって、各部門とも審査員の言葉をよく理解し、個性的で創造性豊かな作品、今日を見すえたもの、時代性のあるそして時代を切り開くような作品をめざして精進されたい。多くの出品者の方々が、中央展以上に厳選である県展に臆することなく、挑戦しつづける情熱と真摯な努力には、心から敬意と深い感謝を表したい。

なお本年より新しい企画として、第1回県こども美術展（こども県展）が、60回県展と同時に郷土文化会館で始まった。自由に伸び伸びと表現された1,596点の絵画、書道作品が、会場一ぱいに飾られ、子供や保護者らに大きな人気を呼んだ。

各部門の活動や関係団体、協会の活発な活動も例年に勝り、特に第43回野外彫刻展、第3回徳島版画展などすぐれた企画であった。第20回記念徳島二紀展も会員19人が力作を発表し盛会のうちに1週間の日程を終了した。

個人の活躍で主だったものをあげることにする。松永勉展、3月15日から21日まで徳島そごう美術画廊で6年ぶりの個展が開かれた。創作活動35年で1つの区切りとなる作品展だという。生命の循環と自然のかかわりをテーマとする松永さんの思いが端的に示され好評だった。4月29日から5月1日にかけて洋画部委員の露口敏幸個展が徳島市シビックセンターで開催、日本の唱歌、童謡の世界を描く企画性のある絵画展であった。5月には1日から14日まで、西川周三（洋画部委員）敬子夫婦洋画展がギャラリー花杏豆で開かれ、船の大作や花

畑などを描いた油絵や水彩画約15点が展示された。船の作品は県展特別賞の作品で、楽しくしかも迫力のある夫婦展であった。木谷弘・長尾弘久二人展「絵画2つの響き」が9月1日から5日まで阿波銀プラザで開かれ、木谷さんが油絵、長尾さんが版画、しかも具象と抽象作品でありながら違和感のない雰囲気、好感のもてる二人展であった。書道展も活発で、先ず7月8日から11日まで、傘寿記念長原皋聖書展が郷土文化会館で開かれ、名句、名言、詩文を主に小作品に絞り書作された作品展であった。9月8日から11日まで協会顧問荒井天鶴詞書展が郷土文化会館で盛大に開催された。書業75年記念徳島書芸院主催で、額48点、軸20点、短冊7点が発表された。先生は、書と文学の一体化を目指し、書の芸術性や書技は二義的と考え、自分の思想や抱懐を一揮して淡々と書く一作も書き直しはしないと言われている。教えられること深しである。11月1日から7日まで、田村昇鶴書作展が四国大学交流プラザで、退任記念として開催された。一本の筆に心を燃やすべしと、作者の心情が愛好者の心に強くひびいた事と思う。なお特筆しておきますが、協会副会長で徳大名誉教授の河崎良行さんが、4月東京銀座のギャラリー「せいほう」で、個展を開催、大勢の愛好者が訪れたといわれる。東京での個展は5年半ぶりという。また第90回二科展の写真部門で、荒井賢治さんが、「大地の女」で、最高賞にあたる「大竹省二賞」に選ばれた。昨年二科会員に推挙され、続いての榮譽に心からお祝い申し上げる。更にデザイン部が、県展参加35年の記念展を11月、四国大学交流プラザで開催、坂本三千一部長ほか15名の作品展示があり、愛好者にも好評、盛会であった。

昨年に続いて、今年も追悼のことばを記すことになった。4月26日、元青年美術家クラブ会長、元美協洋画部委員天野節さんが、94才で亡くなられた。温厚で誠実な人間性豊かな方であった。日本画家の木内トシさんも4月、74才で亡くなった。9月遺作展が開催された。7月1日には協会理事で写真部で活躍され、徳島新聞カルチャーセンター講師としても、指導にあたっていた酒井博司さんが、74才で亡くなられた。心からご冥福をお祈り申し上げます。

最後になりましたが、四国放送（放美展）、徳島新聞社（県美術展）並びに、美術家協会の皆様方に、心から感謝するとともに、ますますのご発展をお祈りして、はじめの言葉といたします。

平成 18 年 3 月

徳島県美術家協会会長

佐 野 比呂志

# 徳島県美術家協会規約

昭和23.	9.	12	規約制定
32.	7.	14	新規約制定
33.	4.	29	規約一部改正
42.	4.	23	〃
46.	4.	29	〃
47.	5.	29	〃
49.	8.	22	〃
52.	7.	23	〃
56.	5.	5	〃
58.	6.	5	〃
61.	6.	21	〃
平成4.	6.	27	〃
6.	6.	25	〃
10.	6.	27	〃

## 第1章 総 則

第1条 本会は徳島県美術家協会と称し、事務所を徳島市内におく。

第2条 本会は県内美術家の連絡を緊密にし県美術の育成発展をはかり美術を通じて県文化の向上につとめることを目的とする。

第3条 本会は徳島県に関係のある美術家をもって組織する。会員は次のいずれかの部に属する。

- ①日本画 ②洋画 ③写真 ④彫刻  
⑤美術工芸 ⑥書道 ⑦デザイン

第4条 本会は目的を達成するために次の事業を行う。

- (イ) 展覧会 (ロ) 講習会 (ハ) 講演会  
(ニ) 観光美術の振興 (ホ) その他必要な事業

## 第2章 役員および会員

第5条 本会に次の役員をおく。

- 会 長 副会長 (2名)  
理 事 (若干名) 監 事 (2名)

会長、副会長、監事は総会で選出する。理事は各部会から5名以内推せんする。役員任期は2年として留任をさまたげない。

第6条 本会は顧問、参与および名誉会員を理事会の推せんによりおくことができる。

第7条 会長は会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。監事はこの会の経理を監査する。

第8条 総会は毎年1回以上会長の招集により開き会計会務の報告、役員選出、規約の改廃、その他重要事項の審議を行う。

総会は各部から選出した代議員によって構成し、出席代議員の過半数をもって議決する。代議員は30名以内の会員の部にあつては3名、

31名以上の部にあつては、さらに10名毎に1名選出できる。

第9条 理事会は必要に応じ会長が招集し総会の決議による会務および緊急事項を執行する。

## 第3章 部 会

第10条 各部に次の役員をおく。

- 部会長・委員 (部会員数の3割以内)  
部監事 (2名)

役員は部総会で選出する。役員任期は2年とし留任をさまたげない。

第11条 部総会は毎年1回以上部会長の招集により開き、会計会務の報告、役員選出その他重要事項の審議を行う。

ただし、部の事情により、部委員会をもって総会にかえることができるものとする。

第12条 委員会は必要に応じ部会長が招集し部会務を執行する。

第13条 部会の決定事項中、各種事業を協会の名において行うときは、理事会の承認を必要とする。

第14条 各部の経費は部会1人当たり、1,750円とし、その他事業収益、寄付金をもってあてる。

## 第4章 経 費

第15条 本会の経費は会費、入会金、事業収益、寄付金その他をもってあてる。

第16条 会費は年額3,500円とし、入会金は1,000円とする。

第17条 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

### (参 考)

☆昭和23年9月12日 設立総会及び発会式を徳島市役所3階議事場で行う。事務所を徳島新聞社内に置く。

☆昭和24年5月3日 事務所を憲法記念館(徳島公園内の県立図書館)内へ移す。

☆昭和25年12月18日 協会パッチを選定(圖案は鬼塚副会長)

☆昭和33年4月29日 今迄常任委員で運営していた協会の組織を部制を設けて、各部会長及び各部委員を選出する。協会運営は各部から選出された理事(3名～5名)によることとする。

☆昭和46年4月29日 6部(日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・書道)のうえに商業美術(58年度からデザインに改称)が加わり7部組織となる。

# 平成16年度 事業報告

- (1) 総 会 ◇平成16年 6 月19日  
◇県郷土文化会館 5 F 第7会議室  
◇平成15年度事業報告及び決算報告  
◇監査報告・承認  
◇平成16年度事業計画及び予算審議  
◇その他
- (2) 理 事 会 ◇平成17年 3 月30日 放美展、県展等について
- (3) 第13回放美展 ◇平成16年 4 月28日（水）～5 月 2 日（日）  
日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・書道・デザインの  
675点展示  
◇受賞者表彰式 平成16年 5 月 2 日（日）県郷土文化会館
- (4) 第59回県美術展  
◇第 1 期 平成16年11月 6 日（土）～14日（日）  
書道の412点展示  
◇第 2 期 平成16年11月16日（火）～23日（火・祝）  
日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・デザインの554点  
展示  
◇第59回展受賞者表彰式 平成16年11月 5 日（金）徳島プリンスホテル
- (5) 県展・放美展会議  
◇第59回県展運営委員会・県展事務局員会議  
(16. 5. 19、16. 9. 10、17. 2. 22)  
◇第13回放美展運営委員会 (16. 4. 23)  
◇第14回放美展運営委員会 (16. 12. 13)
- (6) 各部会行事 ◇洋 画 部  
第19回洋画部会員展 (16. 5. 20～5. 23) 県郷土文化会館  
◇写 真 部  
京都撮影会 (16. 6. 20)  
◇デザイン部  
部会展「デザイナーが描くイラストレーション展」  
(16. 11. 1～7) ホテルクレメントプラザ



- (7) 各種後援
- ◎第1回楽悠会書展 (16. 4. 2～4)
  - ◎第3回紅紫会展 (16. 4. 8～11)
  - ◎第5回ニッコールクラブ徳島支部写真展 (16. 4. 24～26)
  - ◎春琴筆のむくま、気のむくま、書展 (16. 5. 1～30)
  - ◎第11回大耿会書作展 (16. 5. 7～9)
  - ◎第16回“療”4人展 (16. 5. 20～24)
  - ◎第49回成蹊書道会展 (16. 5. 21～23)
  - ◎第2回三谷ミヤ子個展 (16. 5. 27～31)
  - ◎徳島アート21 第2回展 (16. 6. 2～6)
  - ◎第27回「炎」作品展 (16. 6. 4～6)
  - ◎第22回双愛会書作展 (16. 6. 11～13)
  - ◎第27回八紅展 (16. 6. 17～20)
  - ◎第25回東光会徳島支部展 (16. 6. 25～27)
  - ◎第23回徳島平和美術展 (16. 7. 1～4)
  - ◎第19回正鋒会書展 (16. 7. 10～12)
  - ◎第17回長玄書道会展 (16. 7. 23～25)
  - ◎第18回四国大学文学部書道文化学科教員展 (16. 7. 27～8. 2)
  - ◎第63回世代美術展 (16. 8. 5～8)
  - ◎第28回15人展 (16. 9. 2～5)
  - ◎第34回直心会書展 (16. 9. 3～5)
  - ◎第67回書芸院展 (16. 9. 9～12)
  - ◎第1回市場油絵会作品展 (16. 9. 16～20)
  - ◎第27回泉心会書作展 (16. 9. 17～20)
  - ◎第36回石井美術の会作品展 (16. 9. 17～20)
  - ◎第33回徳島雪心会書作展 (16. 9. 18～20)
  - ◎第44回写楽会写真展 (16. 9. 23～26)
  - ◎第49回書協人展 (16. 9. 24～26)
  - ◎第60回青美展 (16. 9. 25～28)
  - ◎第10回徳島障害者芸術祭 エナジー2004 (16. 10. 5～10)
  - ◎第8回旺美展 (16. 10. 7～13)
  - ◎鋭光会写真展 (16. 10. 8～11)
  - ◎第16回睦月会書作展 (16. 10. 30～11. 1)
  - ◎第19回藍美展 (16. 10. 30～11. 3)

- ◎第2回徳島版画展 プリントワーク2004 (16. 10. 30～11. 3)
- ◎長野満子小品展 (16. 11. 3～28)
- ◎第15回辰砂の会展 (16. 11. 6～8)
- ◎第39回書道研究 清潮書作展 (16. 11. 19～21)
- ◎喜寿記念 春藤大耿書作展 (16. 11. 19～21)
- ◎第10回記念六書展 (16. 11. 26～28)
- ◎第34回芳藍書道展 (16. 11. 26～28)
- ◎第34回光輪社書作展 (16. 11. 26～28)
- ◎第10回六書展 (16. 11. 26～28)
- ◎荒井賢治と歩む写真の世界 80人の写真展 (16. 12. 1～5)
- ◎第17回アトリエM作品展 (16. 12. 10～12)
- ◎第33回歳末チャリティ作品・色紙即売展 (16. 12. 11～13)
- ◎第9回尚真書展 (16. 12. 23～26)
- ◎東玄書道会展 (17. 1. 8～10)
- ◎第38回モダンアート徳島支部展 (17. 1. 8～12)
- ◎第7回吉野川市・市場町・阿波町絵画交流展 (17. 1. 20～23)
- (17. 2. 3～6)
- (17. 2. 10～13)
- ◎第10回退教協 悠美展 (17. 1. 24～26)
- ◎第8回美術文化協会徳島グループ展 (17. 1. 27～31)
- ◎第25回書研社展 (17. 2. 19～21)
- ◎四国大学文学部書道文化学科卒業制作展 (17. 2. 24～3. 2)
- ◎第6回徳島現代墨絵・彩墨画展 (17. 3. 11～13)
- ◎第2回桂和会書展 (17. 3. 11～13)



# 徳島県美術展開催運営要項

## 第1条 (名称・開催目的)

本展は徳島県美術展「以下(県展)という」と称し、広く県民から個性と創造性豊かな美術作品を公募し、審査員による公開審査により優秀な作品を選び、展示表彰することにより県内美術愛好家の制作意欲の活性化をはかり、一方県民に郷土の優れた美術鑑賞の機会を提供することにより本県の芸術文化の発展振興に寄与することを目的とする。

## 第2条 (主催団体)

県展は徳島県美術家協会と徳島新聞社の共催により開催する。

## 第3条 (開催運営の組織)

県展を開催運営するため、基本事項を審査決定する「県展運営委員会」と、主として準備計画を進める「県展事務局」とを設置する。

運営委員、事務局員の任期は2年とする。但し再任は妨げない。

### 〔県展運営委員会〕

運営委員会のメンバーは、県美術家協会の会長・副会長2名及び各部会から2名、徳島県から1名、徳島新聞社から3名の合計21名でこれを構成する。

運営委員の中から運営委員長1名、運営副委員長2名を選任する。運営委員長は運営委員会を統括し次の業務を行う。

- 1 開催運営の基本事項について審議決定すること。
- 2 審査員の推薦決定に関すること。
- 3 審査方法、表彰に関すること。
- 4 収支予算、決算の承認に関すること。
- 5 その他県展開催に必要なこと。

### 〔県展事務局〕

事務局を徳島市中徳島町2丁目5番地の徳島新聞社企画事業部内に置く。

事務局のメンバーは、県美術家協会各部会から2名、県美術家協会事務局1名、徳島新聞社2名の計17名で構成する。

事務局員の中から事務局長1名を選任し、次の業務を行う。

- 1 出品規定、応募要項、入場券、ポスター、チラシ、図録等の印刷、受付、配布、販売等に関すること。
- 2 会場、会期、審査、搬入、搬出、運営全般の下準備に関すること。
- 3 審査員候補の下交渉、配宿、航空券の手配、審査日時、場所、接遇等に関すること。
- 4 収支予算案の作成に関すること。
- 5 開会式、表彰式の準備に関すること。
- 6 広報PRに関すること。

7 その他県展開催の下準備に関すること。

#### 第4条 (出品部門)

県展の出品部門は、日本画、洋画、写真、彫刻、美術工芸、書道、デザインの7部門とする。

#### 第5条 (展示作品)

県展において展示する作品は、前条に掲げる7部門の中から次の作品とする。

1 一般公募作品の中から主催者が委嘱する審査員の審査を経て入選した作品及び招待、無鑑査、特別出品の作品を展示する。

その他の作品については運営委員会の議を経て展示する。

2 招待、無鑑査、特別出品については次の規定による。

◇次のものを招待とする。

(1) 無鑑査出品を3回以上得たもの。

◇次のものを無鑑査とする。

(1) 特選を連続3回得たもの。

(2) 年間を問わず特選を4回得たもの。

(3) 年間を問わず特選及び準特選を6回得たもの。(特選1回準特選5回、特選2回準特選4回、特選3回準特選3回、準特選6回の場合とする)

(4) 無鑑査出品者にして、特選または準特選を得たもの。

◇次のものを特別出品とする。

(1) 県美術家協会の会長、副会長、顧問、名誉会員、参与、審査員及び各部の会長、顧問、参与。

(注) ① 招待及び無鑑査出品者が出品しない場合は、運営委員会で認められた事由がない限りその資格を失うものとする。

② 17回展までの奨励賞は準特選と同値とする。

③ 40回展までの準特選は2回をもって特選と同値とする。

#### 第6条 (審査員)

審査員は県外審査員とする。

審査員の選任は県美術家協会から一定数の人数を推薦し、この中から事務局で選任作業を行い、運営委員会の議を経て決定する。

#### 第7条 (審査)

審査は公開により行う。

#### 第8条 (入選、入賞数)

1 入選、入賞数は作品の出品数の増減により多少変動する場合があるが、原則として次の範囲内に止める。

区 分	記 念 大 賞 (特別賞)		特 選	準特選	奨励賞	入 選
日 本 画	各部門  1 点	徳 島 県 教 育 長 賞	1	3	3 以 内	規 定 数
洋 画		徳 島 市 長 賞	2	6	6 ♪	♪
写 真		徳 島 新 聞 社 長 賞	3	9	9 ♪	♪
彫 刻		四 国 放 送 社 長 賞	0	2	2 ♪	♪
美 術 工 芸		徳 島 県 美 術 家 協 会 長 賞	1	4	4 ♪	♪
書 道		徳 島 県 知 事 賞	7	14	14 ♪	♪
デ ザ イン		徳 島 県 議 会 議 長 賞	1	4	4 ♪	♪

※特別賞は各部門の中から最優秀作品1点に対し贈られるものです。

賞はいずれも同格で毎年部門により1つずつ変更し賞を贈ります。

2 入賞は1人1賞とする。

#### 第9条 (表 彰)

県展の入選、入賞者を次の通り表彰する。

- 1 特 選……賞状、賞金7万円
- 2 準特選……賞状、賞金3万円
- 3 奨励賞……賞状、記念品
- 4 入 選……全員に賞状

なお、特選に入賞した作品の中から特に優れた作品について次の特別賞を贈る。

- 1 徳島県教育委員会教育長賞 1名
- 2 徳島市長賞 1名
- 3 徳島新聞社長賞 1名
- 4 四国放送社長賞 1名
- 5 徳島県美術家協会会長賞 1名
- 6 徳島県知事賞 1名
- 7 徳島県議会議長賞 1名

◎特別賞の選考方法については別に定めるものとする。

#### 第10条 (収支予算)

県展の開催、運営に要する経費は次のものをあてる。

- 1 出品料
- 2 入場料
- 3 図録売り上げ代金及び広告料
- 4 各種補助金
- 5 その他

県展の支出経費は事務局長の承認を経て行い、必ず証票をとり、毎年12月末に決算を行い、2月に開催する運営委員会に報告し承認を得るものとする。

第11条 (出品料・協賛費)

県展の出品料及び協賛費は次の通りとする。

- 1 県美術家協会会員の出品料は、1点目3,500円、2点目から1点につき1,500円とする。
- 2 一般の方の出品料は、1点目4,500円、2点目から1点につき1,500円とする。
- 3 招待、無鑑査、特別出品者及びその他審査を受けない者の協賛費は、1点3,500円とする。

第12条 (入場料)

県展の入場料は次の通りとする。

- |   |        |     |      |    |      |
|---|--------|-----|------|----|------|
| 1 | 一般・大学生 | 前売り | 500円 | 当日 | 700円 |
| 2 | 高校生    | 前売り | 250円 | 当日 | 300円 |

第13条 (附 則)

本要項の規定は昭和61年9月から実施する。

本要項の改訂、修正は運営委員の3分の2以上の議決を経てこれを行うものとする。

- |            |      |
|------------|------|
| 平成4年2月22日  | 一部改正 |
| 平成4年5月16日  | 一部改正 |
| 平成8年5月25日  | 一部改正 |
| 平成11年5月14日 | 一部改正 |
| 平成13年5月30日 | 一部改正 |
| 平成14年9月25日 | 一部改正 |
| 平成17年6月14日 | 一部改正 |

# 第60回記念県展記録

会期 (第1期) 平成17年11月12日(土)~20日(日)  
(第2期) 平成17年11月22日(火)~29日(日)  
会場 県郷土文化会館

## 日本画

- 〔審査員〕 小嶋 悠司  
〔特別出品〕 長尾 弘子  
〔招待〕 橋本 正弘 中川 健 岡 英彦 土方るみ子 西野 和男  
土井 洋子  
〔賛助出品〕 長谷 壽  
〔特選〕 石原 千鶴 (記念大賞・県教育長賞)  
森崎 雅子  
〔準特選〕 富田 達子 石動 智子 梶浦 千瑞  
〔奨励賞〕 平野 真里 柳田 一子 宮越 千佳  
〔入選〕 三谷 浩三 江上 豊 有井 和子 藤村ミチヨ 榎本 初子  
南 清子 天羽 弘毅 森上恵理子 森 アサヒ 井村ひろみ  
岡村 美幸 吉田 満子 西村美也子 谷添 美佳 三ツ本繁美  
島山 耀子 平野ひろみ 反田 卓 斎藤 久代 篠原 重美  
岩脇 恵子 國尾由美子 綿谷富美子 中西 芳雄 泉 福美  
清水佳代子 岸本 好美 嘉見 貞子

## 洋画

- 〔審査員〕 絹谷 幸二  
〔特別出品〕 佐野比呂志 永山 隆二 梶田 務  
〔招待〕 清水 巫悞 楠瀬 等 露口 敏幸 長尾 弘久  
〔賛助出品〕 岡 多美子 柏木 雅雄 河田 安市 黒崎 志郎 後藤田仁一  
松川 寛 岡田 守 中辻奈美枝  
〔特選〕 松尾 実 (記念大賞・徳島市長賞)  
西條 明彦 天羽 千絵  
〔準特選〕 西川 周三 美浪 恵利 西村 聡子 西山 貴浩 野口 暁子  
尾田 稔子  
〔奨励賞〕 西崎 志帆 玉田 秀子 藤井 博之 埴淵 祐子 二條 均  
湊川 美希  
〔入選〕 村上 富子 山瀬 稔 島上 二郎 川田 績 藤丸 家栄

越久 高照	瀧川 勝雄	木本 真代	藤崎 恭子	國見 富子
田中シゲミ	福良 哲子	福田 友美	宮田 京子	野村 雅子
立花 悟	行成 洋子	南 清子	島田美奈子	野上 恵子
川中比沙子	青木 幸子	佐藤 敬子	林 静代	島村 英之
西川 敬子	新田 高子	藤井 香世	高橋 朗子	田淵 浜子
木下 和江	平田スミコ	麻植 尊正	岩朝 美絵	山口 明美
加賀谷愛美	富田 君子	田中 康子	関 政明	河本多恵子
小川 雅代	佐藤 嘉子	谷口 園	板東 徹	長井 秀夫
岡本 英見	中島 洋子	川原 禮子	林 敏雄	後藤ユリ子
宇高 桂子	小川しのぶ	伊原 妙子	松浦 英子	鈴木 敬子
伊勢 浩章	中村ようこ	曾我部清美	四本 大祐	北浦 直美
佐藤 友美	仲田 裕美	馬淵 博子	中川 清隆	端野 育代
大西 道夫	中村 恵一	鈴木 陽子	浜野 恭治	住友 義彦
中本真由美	岩田 美幸	伊藤 紀子	南城ミツ子	大津 憲文
萩原 千絵	丸関 朋子	近藤 由里	若山 一恵	岸本 花子
福田 晶	高橋 真理	堀北 啓司	向井 亨司	結城 栄子
折目 早苗	知野 貴世			

## 写 真

〔審査員〕	江成 常夫						
〔招待〕	増田 清次	井上 光雄	木田 英之	西條 征二	勝西 雅夫		
	藤井 梵	武内 亨	笹田 敏雄	櫛淵 魏	三好 和義		
	上野 照文	森 賢一	橋本 圭祐	安長 剛	前浦 芳久		
	荒井 賢治	林 敏彦	多田 晴美	古井 謙吉	中野 建吉		
	井藤 光章	増田 壽	柳本 正	大和 健司			
〔無鑑査〕	船越 正文	堀口 幸男	森住 博				
〔遺作〕	酒井 博司						
〔特選〕	矢部 弘子	(記念大賞・徳島新聞社長賞)					
	西野 倫子	久保 英樹	国見 良幸				
〔準特選〕	井上 翔	播 博文	大栗 隆夫	故島 永幸	多川 静守		
	林 邦光	田中 伸廣	岩崎 英昭	岡村 清			
〔奨励賞〕	井上 秀人	森崎 敦子	土橋 成行	佐々木敏幸	原田 宏		
	大森 孝克	井上 憲治	川真田慶治	田村 泰弘			
〔入選〕	櫛淵 紳哉	久我 千鶴	吉田 仁志	三木 恭子	大津 勝治		
	三木 理司	佐治 孝	山橋 良治	佐野 辰夫	清水 定七		

富永 幸子	松田みゆき	栗田ふさえ	中川 定典	河田 清
勝瀬 彪	岡久 吉徳	飯田 忠志	坂東 明利	谷 賢太郎
溝淵 清之	城田 清志	根ヶ山 治	根ヶ山美江	横山 勤一
竹内 佑一	佐倉 幹雄	野藤 敏美	野藤みきよ	原田 武二
笹尾 正夫	住友 武	石川 徹雄	新居 奏	松家 安信
池添 秀信	立花 悟	田中 義孝	横手 章子	二階 博司
南山 葉子	坂田 能啓	中野 久世	新居 文市	山中 利治
森住 孝義	板東 律雄	佐野 和史	郡 訓子	平野 史子
林 広司	戸出 匡	松尾 寛一	松尾 良子	石本 隆二
三木 啓治	山川 光麿	椎野 泰治	森 英弘	中川 健次
安井 光博	柳川 信子	富岡佳代子	森内 昭男	下山 久男
高野 作男	林 好一	坂野 正明	臣守 澄江	山下 助信
島 昌史	福井 茂	山田 卓	安友 啓二	田中 利彦
島 廣幸	吉本 保夫	榎本 悟	辻 義徳	松原 玲子
赤木 昭子	佐藤 考利	吉本 武彦	宮前 稔	小林 保子
川村 泰史	佐藤 進	喜多 昌弘	櫛谷 文次	福田 満雄
笠井 孝純	小川 勝	賀川 泰広	板東 敏晴	宮本 幸治
椎野シゲ子	渡邊 信二	岡村 吉啓	富加見美枝	竹谷 政登
阿部 啓三	上杉 大一	佐藤 芳之	浜田茄代子	板東よしお
岸田 知久	佐々木勝正	竹内 勝	宮本 利光	後藤 正己
坂東 進	近藤 恵子	溝淵 寛治	高橋 弘	橋本 勝
原田 章一	梅本 貞範	山本 雅敏	野口 道子	向 儀一郎
山口 喜市	西川 敬子	山田 勝二	吉岡 伸夫	秋山 靖
木下 昇	加藤 千明	福井 純子	多田 康文	大西 啓子
大西 忠	安丸 弘二	棚橋 仁志	日下 芳治	神野 太三
宮崎 行弘	榎本 尚美	前坂 定男	林 達也	谷中美智子
佐藤 義雄	武林 恭史	野口 佳一	氏師 敏晴	岸本 英紀
漆原はつ子	稲垣 喜修			

## 彫 刻

〔審査員〕	北郷 悟					
〔特別出品〕	河崎 良行					
〔招待〕	佐藤 隆	大津 文昭	濱口 恵	井下 俊作	鎌田 邦宏	
	松永 勉					
〔賛助出品〕	長岡 強					



〔無鑑査〕 上月 佳代  
 〔特選〕 武田亜希子 (記念大賞・四国放送社長賞)  
 〔準特選〕 津越真由美 安藝 淳二  
 〔奨励賞〕 木村 大志 居上 真人  
 〔入選〕 高丸 公昭 長田喜太郎 二宮 治夫 井上 喜美 東 光司  
 師橋 美樹 加藤美津子 吉田 敦美

## 美術工芸

〔審査員〕 宮田 亮平  
 〔特別出品〕 山上 馨  
 〔招待〕 七条猪三郎 多智花佐代子 松下 雄介 松下 慶一 森 賢一  
 橘 恵 犬伏 絢  
 〔贊助出品〕 村上 正典 中川 存  
 〔無鑑査〕 斎藤 和彦 吉田 敏明  
 〔特選〕 藤井 哲信 (記念大賞・県美術家協会会長賞)  
 大貝 寿子  
 〔準特選〕 大貝 貞雄 四十宮年代 坂東佳代子 鳥井 明子  
 〔奨励賞〕 木田サチコ 山田 和子 小幡 千鶴 山本 和子  
 〔入選〕 玉木 隆子 越 由子 曾江 司 相原 良平 南 泰樹  
 南 郁代 藤井 雅代 平田志保子 宮本 薫 阿部 徳子  
 加藤 和美 武田 美子 冨永 裕子 鶴山 早苗 横井嘉世恵  
 椎野 隆子 藤中 教代 吉田 祐子 宮本 孝 桶木 清子  
 富田ちえ子 一宮多枝子 萬藤 武徳 藤本 友香 檜塚 榮一  
 隅田 良佑 小橋美知子 林 恵子 手塚 健一 吉田 和子  
 美浪 文 岡部 育子 岡谷あかね 加藤 伴江 吉岡 啓子  
 里見 正威 清原 真弓 広瀬由美子 松本 宏 平尾 静子  
 吉本 彩夏 瀬部佳菜子 天羽 羽衣 松村奈津美 高瀬 裕司  
 藤川 恭子 蛇目 町子 家形笑美子 龍木 秀子 内藤 久子  
 丸居 哲雄 吉野 由紀 近藤 静恵 阿部真由美 吉田 陽子  
 垣内耕太郎 小栗加代子 小笠原瑞穂 天野 和子 下内 良一  
 中川 英子 中村ようこ 野村 裕子 椎野 寿子 木村マサエ  
 仁田 和子 青木 房江 平松 京子 庄野 智子 松永 卓司  
 武田 潤子 塩出 敬子 大西 道夫 小林 重美 大西 君代  
 田村 祐子 安富 順子 前川 正子 国井 秋子 中山 公司  
 橋本 正子 佐伯 奏美 田村栄一郎 高田 彰一 吉田 晃子

川人 明子	高田 光	吉田 眞弓	山本 由実	清水由利子
森 克江	綾野 昌子	梶原 浩二	三橋 玄児	西田 善彦
中西 達也	岡崎 雅江	谷内 年子	村川 栄一	高瀬 真記
江角 久子	阪井 和代	清田美和子	山川 恵子	岡崎 益子
小川 光	田村 純子	笠原恵美子	板東 啓子	松島 典子
北野 亘章	清水 晶子	前野 亮治	大川 健次	近藤 香代
成瀬八千子	永山昭一郎	佐藤 光春	田村 佳代	塩崎美つ子
森 明治	山下壽美代	北岡 啓子	竹岡由美子	山田真由美
菊 徳子	青木 壽美			

## 書 道

〔審査員〕	伊藤 天游	井茂 圭洞	田岡 正堂			
〔特別出品〕	荒井 天鶴	新居 藍州	上田 溪水			
〔招待〕	宮井 青雨	長原 皋聖	西 南龍	成尾 荘秀	原田 霄月	
	芝原 醒鶴	前川 古舟	清水 桂月	美馬幾美賀	春藤 大耿	
	中谷 史子	長谷 美峰	勝瀬 景流	川上 虹泉	三間 好鶯	
	近藤 静苑	日下 溪翠	岡島 順子	荒井 彭仙	竹田 和代	
	山口 華城	藤若 美風	武市 鳴雲	中尾 勝子	佐藤 真	
	富久 鳴泉	永松 春苑	島田 小園	坂本 霄風	浜 佳香	
	隅田 英二	松本 清香	多田 清芳	玉城 乾香	薄田 玲泉	
	能仁 華瑤	高岡 晃祥	高田 青蓮	三浦富美代	宇山 泰風	
〔賛助出品〕	東 南光					
〔無鑑査〕	亀石 文苑	佐原 和清				
〔特選〕	林 みゆき	(記念大賞・県知事賞)				
	美馬 潤子	由宇 典代	宮西 恵子	詫間 勝子	岩本 雅三	
	岸 緑	林 浩一				
〔準特選〕	戸出 浩子	米澤 司子	西岡田さつき	駒田 澄子	東川 真美	
	射場 博子	井上 まり	上田 久恵	加村喜美子	中筋 良江	
	上原三千代	小野 幸久	春川 登	中川 富量		
〔奨励賞〕	笠原 笑子	大野シゲ子	佐野 陽子	鈴木 智子	萩原 陽子	
	横田 雅夫	宮守 とみ	松本トキ子	向井 京子	脇坂 優	
	大島 清子	玉城 若菜	長原 七与	中川 博雅		
〔入選〕						
漢字の部	東條 裕子	河野久美子	籙 品子	佐藤 博子	澤本 鈴美	

郡 秋江	平野 実	西村 宣昭	稲井 知子	弘田 敏章
橋本 京子	中西 淑子	馬居美智恵	福井 登美	大平美代子
高畑 明美	宮脇 郷子	吉田 有子	笠松八重子	栗飯原優子
前田 麻子	春藤 秀子	片山 芳明	鈴木エリ子	松永 枝里
南 知枝	松永 浩子	鈴木 正友	寺内 金子	豊浦 佳子
藤田喜美代	飯田 公子	細井 守	田中 育子	佐々木 肇
古林 明子	古川 恵巳	中村 美子	丸岡 由美	野村千恵子
川村 真澄	浅川 陽子	野口 有香	土井 和也	原 貞子
陶久 房枝	折野 茂幸	岡本美津代	奥田 文子	久積富美子
桑田 次雄	中川恵美子	黒田 美穂	三崎美佐代	大下 富江
山地 靖子	山城美三子	扶川 治子	市原 典子	後藤 佳美
福永久美子	村沢健太郎	島田千津代	三好 啓子	谷本 洋子
有井 清	辻 尚子	後藤 紀代	佐々 京子	安友 彰子
矢部 知子	藤山真由里	谷 弘美	鳩成 広美	阿部 千明
藤村 恭子	小倉 孝子	青木 博美	近藤 美香	藤岡千江子
真鍋 洋子	熊代 厚子	藤川 幸栄	岡 典子	宇山 和治
久保 朝子	島 智子	以西 寛敬	大本由紀子	八木 澄江
河野多美子	黒田 早苗	祖川 るみ	笠井 仁美	高見 忠義
荒川 哲信	岡部ひとみ	恵美 恵子	赤池いずみ	服部 弘子
柿原 成子	山崎 真美	渡部 俊子	朝香 友貴	三條 宣隆
小林 忠志	吉田 幸代	忠津 安子	勝浦 美和	森本真由美
長尾 愛子	清水 康江			

## 篆 刻 の 部

吉田 充	遠藤恵美子	田中 昭二	貝塚 鎮雄	山川弥栄子
横田津喜子	住友 通瑛	西村 和恵	内田美代子	岡田 弘子
田淵 勲	岡部 武見	松下 悦子	養毛 真琴	真鍋 一美
三笠 未賀	岸本 友紀	米津 瞳	川又 望未	中井千香子
若江 麻衣	波多野雅子	黒田 紋加	森本真由美	安藤 希望

## 仮 名 の 部

宮崎 早苗	野上 美紀	竹中 敏恵	高橋加奈子	岡島 公子
遠藤 孝子	水口 久枝	赤川久美子	湊 泰子	福村喜代子
倉本 節子	繁崎登美子	武田 詩夜	根津不美子	近藤真千子
森 弥生	吉田 幸子	佐川 公子	青山 秀香	一ツ松真弓
大西 啓子	加藤 昭子	祢木真佐子	河野紀代子	背川 章子

井内 光子	住友 裕子	関 藤子	竹内 英子	森 裕美子
山本 美幸	楠瀬 恭子	川口 珠枝	林 智子	寺尾 俊通
三木アキ子	古谷 和代	飯尾 清	井上小百合	阿部 博子
吉田 亜矢	金子 博明	向井美由希	山本 愛美	津田 上生
平尾 卓美	松浦真知子	賛田美恵子	荒岡 直子	高木 瑞枝
加藤カツ子	三好 啓子	田村富士子	伊丹 志織	山崎 秀美
藤原 育代	井内 愛	河野 静江	笹田 真里	中谷つや子
新子 町子	中野 幸代	大滝富美枝	藤本満里子	原田 葉子
井口 ひろ	加藤 光子	吉田あゆみ	大塩 幹子	高木美賀子
田岡佐記子	小笠 有加	山橋不二子	内田 麻紀	藤田 健二
藤井三樹子	森西美也子	久積希実子	崎野亜希子	福田 玉枝
小谷いずみ	永岡ツタエ	須見智香子	坂本 敬子	東 弥生
関根 史子	濱川 美沙	西宇 明美	芳田 知子	吉岡 榮子

### 近代詩文の部

松岡 文子	丸岡 良子	丸田 三恵	森本知世子	矢野 照代
山崎ひとみ	吉坂希実子	吉田さい子	若林 節子	渡邊 亜希
和田 悦代	青木寿恵子	朝三 和子	糸田川純子	犬伏 靖江
遠藤玻都恵	遠藤 禎子	大井多鶴子	大石 正	大西 英子
大西千鶴子	岡川 泰江	岡崎 啓子	河野 富子	川端喜美子
川又 敏香	木内 典代	桑村 清	児玉 幸子	幸田 康代
坂尾 俊一	榊原早知子	佐藤 恵子	里村 典子	高瀬 善郎
武田 淳子	谷口 陽子	谷本 清子	出原とし子	鳥井佐知子
長尾由美子	長野 裕子	仁木しもえ	野口 晴世	野田 満代
野田 洋子	橋本 君代	濱口 敏子	引地 美貴	平岡 郁子
福山 啓子	本浄 貴子	山本 陽子	芦谷 后子	生野 久美
石井 益美	飯原 美和	岩崎 麻美	桐生 弘美	中野 美恵
吉田佐知子	和田富美子	高橋美知江	竹川 秀穂	富永美知子
木田 史子				

### 前衛の部

枅富 年子	梶川 佳奈	松本真理子	福永 真樹	阿部 公恵
伊藤 真美	大胡恵里香	大胡 真美	渡辺由紀子	麻植塚由佳
今田真梨子	三浦 みや	佐々木知砂	筒井 美帆	吉田 早見
浜浦 有起	浜田麻里子	笹木 明華	近藤 美絵	島尾 明良
義富 博正	佐藤由紀代	梶芳 育代	関口 佳子	中峰 満世

中川 達方 柏尾美恵子 村田 泰輝 高松 輝子 荒井 和子  
永井 厚子

## デザイン

〔審査員〕 永井 一正  
〔特別出品〕 坂本三千一  
〔招待〕 斎藤 繁次 坂野美恵子  
〔賛助出品〕 福井 章  
〔無鑑査〕 敷島のり子  
〔特選〕 四十宮隆志 (記念大賞・県議会議長賞)  
西山 稔江  
〔準特選〕 大盛 知佳 生田 典子 斉藤 剛 岩佐 大祐  
〔奨励賞〕 斎藤志津子 相原 由貴 梶浦 千瑞 稲垣 友香  
〔入選〕 三木由佳里 千崎 太郎 吉岡のぞみ 福家 真未 平野恵里子  
勢川 裕貴 井原 嵩智 西林 良枝 稲実 宏美 西内 沙樹  
四十宮隆志 岡田 真衣 柿本 真希 近清さよこ 岡田 真奈  
西條 明彦 米田 知夏 継岡 夢月 宮田佳那子 村雲 美砂  
今田 知江 新居 成美 米澤 麻美 鎌倉 麻衣 村田真那実  
小笠原瑞穂 松本 直子 池内 理菜 小川 尚子 四宮 光理  
島 美里 岡田 典子 井上 良平 坂東 志保 岸本 真依  
小原 典子 芦尾 節子

## 第60回記念県美術展出品・入選等状況

部門 区分		日本画	洋画	写真	彫刻	美術工芸	書道	デザイン	計
出品数		60	302	783	21	227	866	129	2,388
人数		57	219	268	18	159	553	97	1,371
入 選	率	60.0%	33.8%	21.6%	61.9%	59.9%	41.6%	36.4%	36.1%
	記念大賞 (特別賞)	1	1	1	1	1	1	1	7
	特選	1	2	3	0	1	7	1	15
	準特選	3	6	9	2	4	14	4	42
	奨励賞	3	6	9	2	4	14	4	42
	入選	28	87	147	8	126	324	37	757
	計	36	102	169	13	136	360	47	863
落 選	率	40.0%	66.2%	78.4%	38.1%	40.1%	58.4%	63.6%	63.9%
	落選	24	200	614	8	91	506	82	1,525
招 待 等	特別出品	1	3	0	1	1	3	1	10
	招待	6	4	24	6	7	40	2	89
	無鑑査	0	0	3	1	2	2	1	9
	賛助出品	1	8	0	1	2	1	1	14
	計	8	15	27	9	12	46	5	122
展示数		44	117	196	22	148	406	52	985

◎特別賞は特選の内数である。

# 徳 島 県 美 術

部門 回数	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑
1	委 員	〔野 間 仁 根 家 永 麒 三郎〕	委 員	
2	大 栗 旌 仟	野 間 仁 根	上 田 備 山	〔太 田 三 郎 坂 東 文 夫〕
3	委 員	伊 原 宇三郎	同 上	〔太 田 三 郎 坂 鹿 内 芳 洲〕
4	委 員	須 田 国太郎	同 上	同 上
5	上 村 松 篁	田 村 孝之介	小 野 由 行	〔太 田 三 郎 坂 東 文 夫〕
6	西 山 英 雄	伊 藤 繼 郎	川 崎 亀太郎	同 上
7	山 口 華 楊	田 川 勤 次	棚 橋 紫 水	新 田 藤太郎
8	池 田 遙 村	須 田 剋 太	同 上	〔太 田 三 郎 坂 東 文 夫〕
9	水 田 竹 圃	小 出 卓 二	同 上	同 上
10	管 楯 彦	〔鈴 木 信太郎 野 間 仁 根〕	同 上	同 上
11	奥 村 厚 一	井 上 長三郎	岩 宮 武 二	同 上
12	浜 田 観	福 沢 一 郎	棚 橋 紫 水	同 上
13	小 松 均	藤 井 令太郎	同 上	〔辻 東 晋 堂 坂 東 文 夫〕
14	秋 野 不 矩	針 生 一 郎	岩 宮 武 二	針 生 一 郎
15	奥 村 厚 一	向 井 潤 吉	棚 橋 紫 水	管 沼 五 郎
16	同 上	吉 原 治 良	岩 宮 武 二	柳 原 義 達
17	松 尾 冬 青	中 谷 泰	同 上	向 井 良 吉
18	矢 野 鉄 山	池 島 勘治郎	同 上	安 田 周 三郎
19	中 村 貞 以	森 芳 雄	堀 内 初太郎	堀 内 正 和
20	曲 子 光 雄	桂 ムキ子	岩 宮 武 二	植 木 茂
21	沢 野 文 臣	伊 谷 賢 蔵	同 上	佐 藤 忠 良
22	堂 本 阿岐羅	村 井 正 誠	同 上	辻 晋 堂
23	松 岡 政 信	山 下 大五郎	同 上	井 上 武 吉
24	山 崎 忠 明	大 沢 昌 助	棚 橋 紫 水	菊 池 一 雄



# 展 審 査 員 一 覧

美術工芸	書 道	デ ザ イ ン
鬼塚信之	委 員	
同 上	田 中 白 村	
同 上	炭 山 南 木	
同 上	炭山南木・織田子青	
同 上	手 島 右 卿	
[鬼塚信之 新田藤太郎]	同 上	
鬼塚信之	小 坂 奇 石	
明石朴景	辻 本 史 邑	
会田裕宣	織田子青(漢)・出口草露(仮)	
鴨 政 雄	松 井 恕 流	
近 藤 悠 三	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰	
平 松 宏 春	同 上	
同 上	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠 荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰	
大 西 忠 夫	同 上	
明石朴景	同 上	
平 松 宏 明	同 上	
大 西 忠 夫	同 上	
鴨 政 雄	同 上	
平 松 宏 春	同 上	
内 田 邦 夫	同 上	
山 脇 洋 二	同 上	
槻 尾 宗 一	同 上	
山 脇 洋 二	荒井天鶴・後藤泰秀・田中双鶴 田中栢翠・富永眉峰	

部門 回数	日本画	洋画	写真	彫刻 (46回まで彫塑)
25	奥村厚一	斉藤真成	棚橋紫水	原武典
26	梶喜一	島村三七雄	同同	掛井五郎
27	上原卓	高田誠夫	伊藤册夫	松村外次郎
28	黒光茂樹	中島田中	岩宮同	小畠広志
29	松岡政信	島田中	同同	保田春彦
30	黒光茂樹	田中	同	篠崎明雄
31	河合健二	田中	同	江口
32	長谷川青澄	山口長男	〔岩伊〕宮藤武知	一色邦彦
33	松岡政信	吉井忠	〔岩秋〕宮山武庄	柳原義達
34	山岸純	小西保文	岩宮武	清水九兵衛
35	樋笠数慶	荻井太淳	同同	桜井祐一
36	坂口麻沙	吉井二	同同	土谷武道
37	下田義寛	野見山暁	同同	山本正九兵衛
38	同上	須田藤真	高田誠上	清水田孝一郎
39	同上	齊藤	同	清城
40	下保昭	津高和一	〔岩高〕宮田武誠	清水良治
41	橋田二哲	小松崎邦雄	奈良原宮武	淀木津敏一
42	松本岸敏	国利根山宏	岩三高	橋山猛
43	平福井爽	赤桜大森	高三	山崎谷
44	福岩重一	大谷森本	同	土峯田
45	岩田俊	大沼越	立木島	峯田島
46	穂田融	大馬三	杵同	小建引
47	田路義早	中松根樹	奈良藤江	綿古恩石
48	中藤早	馬三	同	綿古恩石
49	下工那波	中松藤	同	古恩石
50	那波多目	中松藤	同	古恩石
51	那須勝	藤奥	同	石井浦
52	那須勝	藤奥	同	石井浦
53	那須勝	藤奥	同	石井浦
54	那須勝	藤奥	同	石井浦
55	内尾敏隆	佐々木津	大石同	小日原
56	松山岩	大山福	同	石原
57	岩大竹	山福中	同	菅米
58	大竹小	福中	同	菅米
59	大竹小	福中	同	菅米
60	大竹小	福中	同	菅米

美術工芸	書道	デザイン (37回まで商業美術)
藤本能道	荒井天鶴・後藤泰秀・田中双鶴・田中栢翠	
三井安蘇夫	富永眉峰 上	金野 弘
六角穎雄	同 上	大智 浩
鈴木貫爾	同 上	早川 良雄
田村耕一	同 上	原 弘
山脇洋二	同 上	田中 一光
浅野陽	同 上	奥野 英雄
前田泰次	同 上	灘本 唯人
山脇洋二	同 上	大高 猛
中山光哉	荒井天鶴・久保幽香・讚岐泰泉・田中双鶴 田中栢翠・富永眉峰・新居藍州	福田 繁雄
山脇洋二	同 上	福永 正一
田村耕一	荒井天鶴・田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰 西岡楚峰	山城 隆一
同 上	同 上	粟津 一潔
山下恒雄	荒井天鶴・田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰	田中 一光
同 上	同 上	長友 啓典
浅野陽	荒井天鶴・久保幽香・讚岐泰泉・春藤大耿 高原清泉・田中双鶴・田中栢翠・長江清幽 新居藍州・西岡楚峰	亀倉 雄策
中村光哉	明石春浦・坪井正庵	伊藤 憲治
浅野陽	桜井琴風・黒野清宇	サイトウ・マコト
山下恒雄	大岡皓崖・山田伍雲・西野象山	佐藤 晃一
三浦小平二	花田峰堂・小山素洞・東地滄厓	河北 秀也
松永勲	浅見綿龍・森本妙子・加藤大碩	河松 永真
山下恒雄	近藤撰南・東山一郎・中野北溟	浅葉 克己
島田文雄	谷村憲齋・植村和堂・太田義久	勝井 三雄
大西長利	安原皐雲・池田桂鳳・金子卓義	五十嵐 威暢
山下恒雄	鈴木桐華・西本支星・金子聰松	青葉 益輝
島田文雄	尾崎邑鵬・井茂圭洞・大井錦亭	松永 真丸
中井貞次	栗原蘆水・榎倉香邨・種谷扇舟	安西 水一
栗木達介	甫田鷄川・小山やす子・石飛博光	U. G. サト
宮田亮平	杭迫柏樹・藤木正次・吉田成堂	早川 良雄
松永勲	津金孝邦・池田桂鳳・松永暘石	戸田 正寿
竹内順一	田中節山・村上俄山・黒田玄夏	杉浦 康平
栗木達介	宮崎葵充・赤江華城・金子卓義	秋山 孝享
中井貞次	星 弘道・宮重小蘭・西野象山	遠藤 誠
島田文雄	吉川蕉仙・清水透石・作田英嗣	中村 良平
竹内順一	岩井韻亭・光宗道子・大井錦亭	小島 良一
宮田亮平	伊藤天游・井茂圭洞・田岡正堂	永井 一正

# 第14回 放美展記録

会 期 平成17年 5月 4日(水)～ 5月 8日(日)  
会 場 県郷土文化会館

## 日 本 画

〔審査員〕	西野 和男	中川 健	土井 洋子		
〔運営委員〕	長谷 壽				
〔美協副会長〕	長尾 弘子				
〔無鑑査〕	柳田 一子	黒田 實			
〔放美賞〕	和田健一郎				
〔優秀賞〕	斎藤 久男	五宝喜美子			
〔入 選〕	川原 光恵	山田 仁	森 アサヒ	東 千鶴	西村美也子
	野口 優理	春川 登	瀧川フサエ	谷添 美佳	中村 繁子
	木内 和美	西岡 ちほ	有井 和子	板東智恵子	谷一 由梨
	岸本 好美	國尾由美子	丸岡 明子	三ッ本繁美	米沢 稔
	枇杷谷美咲	泉 福美	岩脇 恵子	綿谷富美子	久保 孝子
	石動 智子	鈴木 恵子			

## 洋 画

〔審査員〕	黒崎 志郎	岡 多美子	河田 安市		
〔運営委員〕	梶田 務	玉田 秀子	岡田 守		
〔美協会長〕	佐野比呂志				
〔美協理事〕	松川 寛				
〔美協顧問〕	永山 隆二				
〔無鑑査〕	福良 哲子	木下 和江	田中シゲミ	青木 幸子	岸本 花子
	大西 文代				
〔放美賞〕	住友富美子				
〔優秀賞〕	河村 君子	土橋 正子	松井 結布	野口 暁子	田中 康子
	島田美奈子	北 美智子	瀧川 勝雄		
〔入 選〕	住友 政雄	三宅 勝一	佐々木公子	尾西 敬子	武田 洋子
	阿部 昌子	松島 正	佐藤 友美	前野 亮治	小笠原秋子
	井関久美子	為実美恵子	松尾 実	板東 徹	米沢 博
	堀江 幸子	富岡 晴恵	片山美代子	伊原 妙子	鈴木 敬子
	浅井 香織	井沢 忠昭	白草 由子	新田 高子	須見 澄子
	中山 清一	市原智美子	新藤佐代子	坂東 弘子	富田 久義
	和田 寿子	横手 義人	答島 和年	東原 綺子	南 清子
	曾我部清美	宮本 倖志	大松智恵子	野上 恵子	曾我部秀子
	山口 明美	志摩 政照	美木 要子	篠原 稔	大内 稔夫
	尾田 稔子	長井 秀夫	岩朝 美絵	村上 富子	水口 瑞希

大西 道夫	田野 安子	松原 恵子	奈須 善彦	木下 悟誌
天野 敏康	近藤 由里	日野 邦恵	丸本みずほ	上田 雅
西條 美紗	福田 晶	横田 由紀	村川 栄一	木本 真代
小川 雅代	馬淵 尚子	岩見 隆司	勝間 節夫	日岡 富子
原田 早	湯浅 貴和	結城 栄子	知野 貴世	松浦 英子
中村ようこ	中本真由美			

## 写 真

[審査員]	櫛淵 魏	荒井 賢治			
[運営委員]	武内 亨				
[美協理事]	井上 光雄	安長 剛			
[美協顧問]	西條 征二				
[無鑑査]	赤木 昭子	佐々木敏幸	栗田ふさえ	堀口 幸男	川真田慶治
	大和 健司	小林 保子	久保 英樹		
[放美賞]	平野史子				
[優秀賞]	吉崎 伝	棚橋 仁志	山中 利治	根ヶ山 治	原田 宏
	播 博文	神野 太三	西野 倫子	目崎 全昭	志摩 育美
	板東 敏晴	石川 徹雄	野口 真	佐野 和史	野藤 敏美
	溝淵 寛治	松家 安信	森住 博	四宮 正恵	片岡嘉寿代
[入 選]	後藤 正巳	森 光	岸田 知久	吉崎 伝	阿部 一雄
	富樫 晃(2)	佐治 孝(2)	喜屋田義雄	八村 澄枝(2)	安友 啓二
	谷 賢太郎	岸田 義市	根ヶ山 治	福田 満雄	高橋 弘(2)
	根ヶ山美江(3)	志摩 育美	竹谷 政登	原井 裕夫	踏脱 公男(2)
	佐藤 孝利	成松 善任(2)	棚橋 仁志	森住 孝義(2)	柴山 峰子
	喜多 昌弘	坂東 明利	久我 千鶴(2)	住友 登(2)	上杉 大一
	中尾 一元	橋本 和夫	花 一彦	佐藤 晃一	高野 作男
	岡村 吉啓	佐藤 義雄	中野 久世(2)	溝淵 寛治	梶村 鉄次
	林 邦光	竹岡 章(2)	井内 正孝	河田 清	増田 一郎
	新開 修	原田 宏	天羽 敬郎(2)	山口 正明	大西 啓子(2)
	四宮 正恵	池添 秀信(2)	森下 明佳	後藤 和美	相原 朝生
	島 廣幸	竹谷 マリ(2)	氏師 敏晴(2)	前坂 祥文(2)	西野 倫子(2)
	宮本 幸治	篠原 治雄(2)	梅本 貞範(2)	富岡佳代子(2)	新居 奏
	野口 道子(2)	佐野 和史	中川 健次(2)	竹内 好文(2)	安井 光博
	山本 雅敏(2)	柳川 信子(2)	福永 豊	幸山 元子(2)	林 広司(2)
	川西 明雄(2)	椎野シゲ子(2)	正見 晃章(2)	渡邊 信二(2)	多田 進(3)
	四宮 清文(2)	山中 利治(2)	郡 利明	郡 訓子	森崎 敦子(2)
	岡田 佳子(2)	松原 玲子	増谷 好子(2)	辻 絹子(3)	橋本 勝(2)
	森内 昭男(2)	辻 義徳	板東 律雄(3)	米塚 稔(3)	目崎 全昭(2)
	目崎須美子	石川 徹雄	土橋 成行	大森 孝克	野藤みきよ(2)

田中 伸廣(2)	松尾 寛一	平野 史子(2)	稲垣 喜修	田中 義孝
林 好一	臣守 澄江(2)	宮前 稔(3)	山下 助信	新居 修
多田 康文	峯野 智鶴	森住 博	国見 良幸	伊達 照子

## 彫 刻

〔審査員〕	鎌田 邦宏	濱口 恵	長岡 強		
〔運営委員〕	松永 勉	佐藤 隆	井下 俊作		
〔美協副会長〕	河崎 良行				
〔無鑑査〕	東 光司				
〔放美賞〕	井上 喜美				
〔優秀賞〕	二宮 治夫				
〔入選〕	十河 清	武田亜希子	山下 益司	津越真由美	野村 優依
	森 拓己	松井 結布	西條 未紗	師橋 美樹	榑崎 聖子
	榑崎 祥子	長尾 崇弘	川内 晴加	与 吉	橋本 真里

## 美術工芸

〔審査員〕	橋 恵	松下 雄介	七条猪三郎		
〔運営委員〕	松下 慶一	森 賢一			
〔無鑑査〕	斎藤 和彦	四十宮年代	寒川 治雄		
〔放美賞〕	田村 佳代				
〔優秀賞〕	吉田 陽子	加藤 伴江	玉木 隆子	渡辺美恵子	田村栄一郎
	松島 典子	清水 晶子	大西 道夫		
〔入選〕	垣内耕太郎	阿部まゆみ	武田 美子	斎賀 洋子	一宮多枝子
	三宅 房子	三宅 久子	四宮 千代	湯浅信次郎	吉田 和子
	桶木 清子	前田 道子	みついみつ	森本 静子	東 慶子
	漆原 久子	石川多美子	木村マサエ	高木喜代香	成瀬八千子
	木田サチコ	椎野 隆子	鳥井 明子	大山キミ子	隅田 良佑
	佐藤アヤ子	川真田泰裕	中西 達也	鈴江 兼子	和佐 豊子
	岡崎 雅江	松本 宏	大木 真澄	岡本亀代子	谷の 激流
	原 龍源	楠 正陶	大北佳代子	近藤 静恵	平尾 静子
	横井嘉世恵	山村 啓子	市川 治由	島村 広子	前野 亮治
	大川 健次	鶴山 早苗	阿部真由美	相原 良平	小川 光
	佐藤 光春	松本みづる	榑塚 栄一	大川 雅代	宮本 薫
	青木 寿美	吉田 祐子	日高 琴美	四宮 千代	吉野 由紀(2)
	橋本いつ代	竹岡由美子	吉田 晃子	宇川 清英	小笠原瑞穂
	水野 豊子	田村 純子	板東 啓子	美浪 文	南 泰樹
	南 郁代	大塚 洋子	松永 卓司	高瀬 真記	高瀬 裕司

元木 節子	谷内 年子	那村智恵子	山川 恵子	里見 正威
近藤 川津	結城 栄子	田岡 昌子	中村ようこ	北村 恭子
村上 綾子(2)	村川 栄一	古谷 清美	清水由利子	家形笑美子(2)
藤川 恭子	下内 良一	松原 敦子	藤川 愛子	甘利 廣子
大貝 寿子	大貝 貞雄	曾江 司	大内 敏男	新野 澄子
藤井 雅代	岩佐 京子	吉川 茂	宮本 睦美	富永 裕子
徳商高 陶芸部	友竹 広治	藤中 教代	萬藤 武徳	西田 善彦
石本 達(2)	与 吉	平岡英津子	広瀬由美子	貝瀬 信子
貝瀬 洋次	江角 久子	梶原 浩二	山下壽美代	富田ちえ子
塩出 敬子	手塚 健一	野口加代子	森 克江	小林 重美
大西 君代	小林 徳子	柿田コイト(2)		

## 書 道

[審査員]	松本 清香	高田 青蓮	玉城 乾香		
[運営委員]	上田 溪水	長原 皋聖	長谷 美峰		
[美協理事]	新居 藍州	春藤 大耿			
[無鑑査]	高田由里子				
[放美賞]	藤原 育代				
[優秀賞]	木室 勝江	大塚 清二	岡崎 啓香	島田 聖翠	杉本 妙子
	鴻野千賀子	大西 清葩			
[入選]	春川 登	瀧下 由子	向井 静代	隔山 和子	益岡 輝実
	洲崎 忠雄	市原 典子	田中 久子	藤永 真里	鈴木奈緒美
	笠井 仁美	久保 光瑤	桑村 崇生	若林 麗華	東前久美子
	古谷ますみ	村部 紘子	今柴有美子	猪尾 直治	大塚 久子
	中川恵美子	奥田 文園	大野シゲ子	原 貞子	桑田 次雄
	岡本美津代	四宮 恭子	笠原 笑子	折野 茂幸	陶久 房枝
	久積富美子	宮本 暁美	村部 幸子	森本 茂宏	増田 愛子
	坂野 雅子	佐野チヨミ	中谷つや子	瀧倉 理恵	笹田 真里
	井内 愛	鈴江美音子	出口末喜子	中田須美子	湊 紀子
	清水 久恵	近藤 米子	谷本智栄子	荒川 佳子	坪内サチ子
	宇津 清子	栗城 茂子	長尾 恵峰	平野 峰翠	山口寿満子
	谷本真由美	野口 有香	西村 美保	小野 幸久	松本 雍司
	川下小夜子	宇野 太平	岸 浜子	大和 公代	片山 保
	川端喜美子	遠藤 禎子	森本知世子	町田 哲子	赤穂 郁代
	弘田 敏章	向井美由希	向井 絵美	桑村 清	庄野 修一
	天野 敦子	犬伏 千恵	栗栖 美穂	西條 美賀	西村 直美
	波多野博子	松英 彩華	岸本 友紀	中井千香子	川又 望未
	森本真由美	黒田 紋加	真鍋 一美	稲田 紀子	谷 貴美子
	出口 英邨	高原 幸美	谷口 香葩	清水 香裕	引地 美貴



長尾 香蘭 渡邊 香婉 横山 乾尚 藤本 瑤香 大西 英仙  
 武田 玲香 上原 瑞香 福池 愛 矢部 静香

デザイン

[審査員] 福井 章 斎藤 繁次 田中 一郎  
 [運営委員] 坂本三千一 坂野美恵子  
 [放美賞] 米澤 麻美  
 [優秀賞] 籠家 弘高 新居 成美 千崎 太郎  
 [入選] 松田 紘子 小谷 万智 須藤 政代 林 敏雄 木村 一知  
 春川 法古 後藤 郁美 笠井さつき 三木由佳里 長宗 瞳  
 喜和田 幸 坂東 志保 池内 理菜 松本 直子 小笠原瑞穂  
 村田真那実 鎌倉 麻衣 山中 麻衣(2) 平賀 鈴子 福谷 法子  
 堀淵 梓 高橋 伸之 祖出 祐輔 檜谷 仁 生田 典子(2)  
 藪本貴実代 前田さおり 望月 唯 廣瀬 友理 秋田 恵美  
 楠木 浩子 平田 慈 西木 匠 湯浅 寛(2) 西内知枝子  
 平野恵里子 勢川 裕貴 川崎 克寛

第14回放美展出品・入選等状況

区分	部門	日本画	洋画	写真	彫刻	美術工芸	書道	デザイン	計
出品数		48	203	494	23	205	169	86	1,228
人数		46	149	202	21	139	157	74	788
入選	率	62.5%	42.4%	38.9%	73.9%	69.3%	66.3%	52.3%	50.8%
	放美賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	優秀賞	2	8	20	1	8	7	3	49
	入選	27	77	171	15	133	104	41	568
	計	30	86	192	17	142	112	45	624
選外	率	37.5%	57.6%	61.1%	26.1%	30.7%	33.7%	47.7%	49.2%
	落選	18	117	302	6	63	57	41	604
無審査	審査員	3	3	2	3	3	3	3	20
	運営委員	1	3	1	3	2	3	2	15
	美協役員	1	3	3	1		2		10
	無鑑査	2	6	8	1	3	1		21
	計	7	15	14	8	8	9	5	66
展示数		37	101	206	25	150	121	50	690

# 職 細 分 局

中華民國二十九年

職 細 分 局

中華民國二十九年

職 細 分 局

## 各 部 記 錄

職 細 分 局

職 細 分 局

職 細 分 局

職 細 分 局

職 細 分 局

職 細 分 局

職 細 分 局

職 細 分 局

職 細 分 局

職 細 分 局

職 細 分 局

職 細 分 局

職 細 分 局

職 細 分 局

職 細 分 局

職 細 分 局

職 細 分 局

職 細 分 局

職 細 分 局

職 細 分 局

職 細 分 局

# 日 本 画 部

部 会 長 西 野 和 男

## 年間展望

### ◎第14回放美展（5月4日～8日 県郷土文化会館）

出品点数は48点で、その中から入選27点、放美賞1点、優秀賞2点を選んだ。

全般的に作者の意図がよくわかり若い出品者の層が厚く、新鮮な切り口で取り上げた作品が多かった。選に洩れた作品の中にも今後を期待できる作品が多く、個性と感性を大切に次回の出品に期待したい。

放 美 賞	「刻」	和田健一郎
優 秀 賞	「はる。満々」	齋藤 久男
ゝ	「紅葉の立山」	五宝喜美子

### ◎第60回記念県美術展（11月12日～20日 県郷土文化会館）

今回の審査は、創画理事の小嶋悠司先生にお願いした。応募点数は60点で、その中から特選（特別賞、記念大賞）1、特選1、準特選3、奨励賞3、を含む入選36点を選んだ。小嶋先生からの総評は次のようなものであった。

公募展の審査をしていると、前年に賞をとった作品のまねをしたり、東京で流行（はや）っている抽象的な絵を出品してきたりするが、私は、そんな作品を求めている。今回の審査では「頭で考えた絵」「技術に走った絵」は選外とした。

絵は考えてやるものじゃないからだ。自然との対話から出てくるものや、スケッチから受けた感情を大切にしてほしい。

特 選 (県教育長賞)	「サンシャイン」	石原 千鶴
ゝ	「道」	森崎 雅子
準特選	「源流」	富田 達子
ゝ	「青いトマト」	石動 智子
ゝ	「日々」	梶浦 千瑞
奨励賞	「立葵」	平野 真里
ゝ	「花仙人掌」	柳田 一子
ゝ	「夏休みの朝」	宮越 千佳

## 会員消息

(県展・放美展関係は除く。月別。)

- 1月 第37回画展ふるさと 県郷土文化会館 濱口芳春
- 3月 スモールアート・アンデパンダン展 (県女流美協有志によるスマトラ沖地震チャリティ展)  
フリーズゾーン大道ギャラリー  
長尾弘子他5名
- ◇ 第40回日本墨彩画院展 香川県文化会館 長谷 壽
- ◇ 第45回日本南画院展 東京・京都・大阪美術館  
長谷 壽・濱口芳春・藤井瑞雲
- ◇ 第13回田野町全国水墨画展  
高知県 江上豊溪
- 4月 第40回日春展 東京銀座 松屋 橋本正弘
- ◇ 第95回徳島県女流美術家協会展  
県郷土文化会館 長尾弘子他16名
- 5月 第44回阿南市美術展 阿南市文化会館 長谷 壽・津田津保三
- ◇ 第43回溪生社水墨画展 四電プラザ 横田谿秀・江上豊溪
- 6月 第38回珀雲社展 阿波銀プラザ 長谷 壽・濱口芳春・藤井瑞雲  
川原光恵・吉田満子
- 7月 京都日本画協会選抜展 京都文化博物館 土方るみ子
- ◇ 第5回春郊会現代南画展 阿波銀プラザ 濱口芳春
- 8月 第34回絵で見る徳島展 県郷土文化会館 濱口芳春
- 10月 第63回有秋会展 大阪市立美術館 濱口芳春・長谷 壽・藤井瑞雲
- 11月 第37回日展 東京都美術館 橋本正弘・岡 英彦・土方るみ子
- ◇ 読売新聞名士名流作品展 近鉄百貨店 土方るみ子
- ◇ 第34回阿南市文化祭展 阿南市文化会館 長谷 壽・津田津保三
- ◇ 第7回由岐町文化祭展 由岐ポッポマリン 長谷 壽
- ◇ 日和佐町文化祭展 日和佐公民館 坂本久江・白河邦子・西口光代  
南 清子
- ◇ 第6回福井町文化祭展 福井町総合センター 長谷 壽
- 12月 第34回徳島新聞社チャリティー作品展  
徳島そごう7F 長尾弘子・岡 英彦・井内カヨ子

# 洋 画 部

部 会 長 梶 田 務

## 年間展望

◎第60回記念県美術展（第1期 11月12日（土）～20日（日） 県郷土文化会館）

出品総数は302点で、前回より21点増加した。入賞・入選点数は102点で、入選率は33パーセントという、ここ数年にない厳選となった。記念展として特選3点のうちの1点を大賞に、準特選及び奨励賞は従来各5点であったが1点増しの各6点となり、入賞作品の点数は計15点となった。

審査員には、日本芸術院会員で独立美術協会の絹谷幸二先生をお迎えした。その審査評の一部を紹介する。

「絵画が人の心を映す鏡とすれば、人間としての豊穡な精神をまず鍛えなければならぬ。大多数の作品は、過去に学び、進取の気性に富み、時代を見事なまでにとらえ、人生を謳歌する姿を映し出していた。全体的なレベルは高く、写実、具象、抽象を問わず、絵画がそれぞれの詩を歌っていて、審査する私を楽しい気持ちにしてくれた。

徳島市長賞の松尾実「夢」は、現代人の持つ不安と焦燥を画面に塗り込めて新境地を描き出した。空間に対する二重写しの線描画で、空間の揺らぎと大地の歩みをとらえてすがすがしい。二つ折りの画面と、それを切るように配置した背景の効果が素晴らしい。赤い扉、地の重力と上方に開かれた天空を飛翔する鳥たち…。生きるものと大地と空間のとらえ方が人体にも生かされている。「生きるとは何か」「死ぬとは何か」という問いかけを、私たちに投げかけてくれる作品だ。

特選の西條明彦「風化」は、静ひつな画面にもかかわらず、人間の犯した罪の慟哭が、画面から聞こえてくるようだ。的確な技術が光と影を見事に表現した。破壊されてもなお大地には、わずかな間隙から生命の息吹が芽生え、平和を願う気持ちが折鶴として描き出されている。

特選の天羽千恵「片隅の孤独」は、巨大な肉の塊をどきりとするような迫力で描かれている。人間が豊穡の海でごう慢に生きている姿への孤独感か、画面いっぱい広がる油彩画のマチエールが、作者の意図を物語って力強い。背後の直線的な空間と有機的な人体の曲線が画面に安定感を与えている。」

◎第14回放美展（5月4日（水）～5月8日（日） 県郷土文化会館）

洋画部門の応募者は149名、点数203点で、昨年より28点増。入賞・入選は86点で例年の

ことながら厳選となった。壁面の都合で展示されなかった作品も遜色のない好作品で不運としか言いようがない。これにめげず今後も精進されて応募されるようお願いしたい。

受賞作品の審査評の一部を紹介する。

「放美賞の住友富美子さん「黄昏の路地」は抽象的な表現様式で詩情豊かな心象風景。優秀賞の松井結布さん「明洞の売り子」は堂々たる写実力を展開した優れた人物画である。滝川勝雄さんの「生命の創生」（版画）は切れ味鋭い詩情豊かな表現。田中康子さんの「ホルスタインの親子」は滋味あふれる作。島田美奈子さんの「売り出し日」は無駄のない優れた構成力で、野口暁子さんの「浮ドック」はグレー調の力強い画面。土橋正子さん「感想小屋」と北美智子さん「都会の川」は対照的。前者は草深い田舎の風景、後者は都会の掘割を描いたものであるが、色彩、構図ともに見るべきものがある。」

#### ◎第20回記念洋画部会員展（5月12日（木）～5月15日（日） 県郷土文化会館）

出品総数101点、遺作2点、計103点。本年は第20回記念展として20号以上、旧作も可としたため、各作品とも力作ぞろいで見応えのある展覧会になった。会員相互の研究・交流の場としてさらに充実を図って多くの県民の方々に愛好される展覧会となるように念願してやまない。会員各位のご協力を切にお願いしたい。

なお、会期中の5月14日には、会員相互の親睦を深める懇親会をホテルグランドパレス徳島で開催し、県文化協会会長、県美術家協会会長の佐野比呂志氏のご講演をいただいた。

#### 会員消息

（県展・放美展関係は除く。五十音順。）

- 青木 幸子 洋画部会員展（郷文）、八紅会展（阿波銀プラザ）、秀作巡回展（県内）、東富田文化祭（東富田コミュニティセンター）、八万文化祭（八万コミュニティセンター）
- 東 紀美子 洋画部会員展（郷文）、徳島アート21（阿波銀プラザ）、波の会・つくしの会合同絵画展・阿南市文化祭（阿南市文化会館）
- 阿部 昌子 土曜展・洋画部会員展・青美展（郷文）
- 井沢 忠昭 洋画部会員展（郷文）、阿南市文化展・阿南市展（阿南文化会館）、全理展（東京代々木全理会館）、加茂谷文化展（加茂谷公民館）、青彩美術展（徳島市シビックセンター）
- 伊勢 浩章 徳島アート21（阿波銀プラザ）、15人展（ヨンデンプラザ徳島）、洋画部会員展・徳島平和美術展（郷文）
- 乾 繁春 第65回美術文化展：会員出品（東京都立美術館）、第65回関西美術文化展

(大阪市立美術館)、美術文化14人展(東京銀座アートギャラリー)、NHK高松文化センター水彩美学、油彩美学展:賛助出品(高松市立美術館ギャラリー)、世代美術展(徳島市シビックセンター)、塩江美術館企画:個展(高松市塩江美術館)

- 岩谷 明 38回画展ふるさと・洋画部会員展・青美展(郷文)、つくし絵画グループ展(ヨンデンプラザ徳島)
- 宇高 桂子 第59回女流画家協会展(東京都立美術館)、アンデパンダンテ展(大道フリーゾーン)、第95回徳島県女流美術家協会展(郷文)、アトリエUDAKAクリスマス展(ラナンカフェ)
- 越久 高照 洋画部会員展・徳島市芸術祭美術展・青美展(郷文)、藍美展(藍住町福祉センター)、国民文化祭ふくい2005(福井県立美術館)
- 大塚 政孜 鴨島、市場、阿波、三町絵画交流展(各町文化センター)、洋画部会員展(郷文)、阿波市市場地区文化祭(市場ふれあいセンター)
- 大野 文雄 青彩美術展(徳島市シビックセンター)、徳島市サークルふれあい展(徳島市中央公民館)
- 大西 文代 青彩美術展(徳島市シビックセンター)
- 大西 道夫 第55回モダンアート展(東京都立美術館)、モダンアート京都展(京都市美術館)、モダンアート徳島支部展(阿波銀プラザ)、洋画部会員展(郷文)、道草展(喫茶やまなみ)
- 大西利津子 洋画部会員展(郷文)、徳島アート21(阿波銀プラザ)
- 小笠原秋子 洋画部会員展(郷文)、王地分館展(王地小)、三好郡教職員春秋展(たばこ資料館)
- 岡 多美子 徳島県退職校長会展(生き甲斐作品展)・徳島市芸術祭展:審査員出品・第95回徳島県女流美術協会展・第34回徳島仙台文化交流美術展・洋画部会員展(郷文)、スモールアート展(大道ビルメンテビルギャラリー)、21世紀芸術企画特選美術展:招待(大分市他)、徳島県女流美術家協会主催で例年通り春・秋季2回ヌードモデルとコスチュームモデルのデッサン会実施、県外美術研修旅行も実施
- 岡田 君代 洋画部会員展・平和美術展・青美展(郷文)、15人展(ヨンデンプラザ徳島)
- 岡田 守 徳島市芸術祭美術展:特別出品・洋画部会員展(郷文)、第64回世代美術展(徳島市シビックセンター)
- 尾形 正二 第65回美術文化展(東京都立美術館)、美術文化四国支部展(阿波銀プラ



- ザ)、洋画部会員展・徳島平和美術展(郷文)、15人展(ヨンデンプラザ徳島)
- 尾崎 素子 第71回東光展(東京都立美術館)、洋画部会員展・東光会支部展(郷文)、鳴門市展・白鳳洋画グループ展(鳴門市立図書館)
  - 加賀谷愛美 洋画部会員展(郷文)
  - 賀木 道子 第71回旺玄展(東京都立美術館)、洋画部会員展(郷文)、第64回世代美術展(徳島市シビックセンター)、第71回展大阪巡回旺玄展(大阪市立美術館)
  - 片山 富市 現代文化賞受賞 第71回旺玄会展:会員出品(東京都立美術館)、第71回旺玄会大阪巡回展:会員出品・第53回関西旺玄会展(大阪市立美術館)、第9回旺美展旺玄会東四国支部展(阿波銀プラザ)、第11回上板町美術愛好会作品展(上板町技の館)、洋画部会員展(郷文)
  - 川田 績 洋画部会員展(郷文)、美馬市文化祭(脇町アリーナ)
  - 河田 安市 第37回日展:会友入選・第81回白日会展:会員出品(東京都立美術館)、洋画部会員展(郷文)
  - 河本多恵子 徳島市芸術祭美術展:無鑑査出品・洋画部会員展・徳島新聞カルチャー洋画部展(郷文)、八紅展(阿波銀プラザ)、国府文化祭(国府町コミュニティセンター)
  - 河野 公子 第65回美術文化展(東京都立美術館)、第65回関西美術文化展(大阪市立美術館)、洋画部会員展・徳島平和美術展・青美展(郷文)、15人展(ヨンデンプラザ徳島)、美術文化四国支部展(阿波銀プラザ)
  - 岸本 花子 洋画部会員展・徳島市芸術祭美術展:招待出品(郷文)、八紅展(阿波銀プラザ)、八万文化祭(八万コミュニティセンター)
  - 北 美智子 洋画部会員展、徳島市芸術祭美術展(郷文)、八紅展(阿波銀プラザ)、八万文化祭(八万コミュニティセンター)
  - 喜多 直彦 脇町文化祭(脇町うだつアリーナ)、洋画部会員展(郷文)
  - 木谷 弘 第65回美術文化展(東京都立美術館)、第65回関西美術文化展(大阪市立美術館)、美術文化四国支部展(阿波銀プラザ)、洋画部会員展(郷文)、第64回世代美術展(徳島市シビックセンター)、木谷弘・長尾弘久二人展(阿波銀プラザ)、悠美展(ヨンデンプラザ徳島)
  - 黒崎 志郎 第58回示現会展・第93回日本水彩展・第37回日展(東京都立美術館)、洋画部会員展(郷文)
  - 後藤ユリ子 第65回美術文化展(東京都立美術館)、第65回関西美術文化展(大阪市立

- 美術館)、美術文化四国支部徳島展(阿波銀プラザ)、洋画部会員展(郷文)
- 後藤田仁一 第65回美術文化展(東京都立美術館)、第65回関西美術文化展(大阪市立美術館)、美術文化四国支部展(阿波銀プラザ)、美術文化の14人展(東京銀座アートギャラリー)、第64回世代美術展(徳島市シビックセンター)、洋画部会員展(郷文)、悠美展(ヨンデンプラザ徳島)
  - 近藤 克子 洋画部会員展・第95回徳島県女流美術家協会展(郷文)、第71回東光会展(東京都立美術館)、徳島県東光会支部展・第38回ふるさと画展(郷文)
  - 嵯峨 潤三 第24回すどり洋画展(西宮市北口ギャラリー)、洋画部会員展(郷文)、嵯峨潤三油彩画展(ギャラリー喫茶グレイス)
  - 斎藤 靖子 日本版画院展(東京都立美術館)、第95回徳島女流美術家協会展・洋画部会員展・ふるさとを描き遺す会(郷文)、第3回徳島版画会展(阿波銀プラザ)、悠美展(ヨンデンプラザ徳島)、版画と染色展(東かがわ市)
  - 笹田 興一 洋画部会員展(郷文)、15人展(ヨンデンプラザ徳島)
  - 佐藤 敬子 洋画部会員展・第61回青美展(郷文)、第61回現展(東京都立美術館)、第27回鴨島美術グループ展(阿波銀プラザ)
  - 佐野比呂志 第42回関西独立展：無鑑査出品(大阪市立美術館)、洋画部会員展・徳島市芸術祭美術展：審査員出品(郷文)、第64回世代美術展(徳島市シビックセンター)、徳島アート21第3回展(阿波銀プラザ)
  - 志摩 政照 鴨島美術グループ展(阿波銀プラザ)、吉野川市・市場町・阿波町絵画交流展(各町文化センター)、総合美術展(吉野川市文化研修センター)
  - 四宮 久子 二紀展(東京都立美術館)、神戸二紀女流展(ギャラリーほりかわ)、アトリエバク展(阿波銀プラザ)、徳島市芸術祭美術展(郷文)
  - 島上 二郎 東光会展：会員出品(東京都立美術館)、東光会徳島支部展、洋画部会員展(郷文)
  - 島田美奈子 洋画部会員展・徳島新聞カルチャー展・徳島市芸術祭美術展(郷文)、八紅展(阿波銀プラザ)、八万文化祭(八万コミュニティセンター)
  - 清水 亙煥 洋画部会員展(郷文)、清水亙煥・新也親子展(徳島そごう)、第38回清水亙煥油絵個展(徳島そごう)
  - 下時治郎秀臣 白日会展：会員出品(東京都立美術館)、白日展巡回展(鹿児島・愛知・大阪)、五星会展(福岡三越)、洋画個展(神戸・京都大丸)、日展出品(東京都立美術館)、かけがえのない現象展(日本橋三越)、鴨島美術グループ展(阿波銀プラザ)
  - 下内 裕次 モダンアート展(東京都立美術館)

- 鈴木 敬子 洋画部会員展（郷文）、アトリエM展・鴨島美術グループ展（阿波銀プラザ）
- 住友 義彦 洋画部会員展（郷文）、羽ノ浦町民文化祭（羽ノ浦町総合体育館）
- 曾我部秀子 洋画部会員展・徳島市芸術祭美術展（郷文）、八紅展（阿波銀プラザ）、八万文化祭（八万コミュニティーセンター）
- 武田 洋子 平家まつり作品展（東祖谷歴史民族資料館）、三好郡教職員春風展（たばこ資料館）
- 玉田 秀子 洋画部会員展・徳島市芸術祭美術展（郷文）、徳島アート21第3回展・八紅展（阿波銀プラザ）、つくしの会・波の会合同絵画展（阿南市文化会館）
- 田中シゲミ 洋画部会員展・徳島新聞カルチャー展・徳島市芸術祭美術展（郷文）、大麻町文化展（大麻町公民館）
- 田中 康子 洋画部会員展・徳島市芸術祭美術展（郷文）、八紅展（阿波銀プラザ）、徳島県秀作美術展（県内）
- 田淵 浜子 東光会展（東京都立美術館）、洋画部会員展・東光会徳島支部展（郷文）
- 為実美恵子 なでしこ祭（井川町）
- 辻野 正廣 青彩美術展（徳島市シビックセンター）、洋画部会員展（郷文）
- 露口 敏幸 第4回生きがい作品展・洋画部会員展（郷文）、露口敏幸個展（徳島市シビックセンター）
- 唐渡 覚 洋画部会員展（郷文）、阿波市文化協会市場地区文化祭（市場文化センター）
- 永井 郁枝 東光会展（東京都立美術館）、洋画部会員展・東光会徳島支部（郷文）
- 長尾 弘久 長尾弘久版画展（京都平安画廊）、木谷弘・長尾弘久二人展・徳島アート21第3回展（阿波銀プラザ）、第3回徳島版画展巡回展（阿波銀プラザ・阿波和紙会館）、洋画部会員展（郷文）
- 中辻奈美枝 洋画部会員展（郷文）、徳島アート21第3回展（阿波銀プラザ）、阿南市文化祭・波の会・つくしの会合同絵画展（阿南市文化会館）
- 中村 晴代 青彩美術展（徳島市シビックセンター）、洋画部会員展（郷文）
- 長野 満子 洋画部会員展・第37回「画展ふるさと」・第34回「絵で見る徳島展」（郷文）、ふるさとを描き遣す会・第1回徳島城博物館ボランティアの会員展（徳島城博物館ギャラリー）
- 中山 清一 美術文化四国支部展（阿波銀プラザ）、第33回徳島市芸術祭美術展・第11回徳島県健康福祉美術展（郷文）、第65回美術文化協会展（東京都立美術館）、第65回美術文化協会展（京都市美術館）、第65回関西美術文化協会展

(大阪市立美術館)

- 南城ミツ子 東光会展：会員出品（東京都立美術館）、洋画部会員展・東光会徳島支部展・徳島市芸術祭美術展：招待出品（郷文）
- 新居 千尋 あしあと展（阿波銀プラザ）
- 二條 均 洋画部会員展・徳島平和美術展・青美展（郷文）、板野美術クラブ展（板野町文化の館）
- 仁木 幸子 洋画部会員展・徳島新聞カルチャー展（郷文）、八万文化祭（八万コミュニティセンター）
- 西 富美 洋画部会員展（郷文）、第18回日本の自然を描く展（上野の森美術館・兵庫県立美術館）、第33回サロン・デ・ボザール展（東京都立美術館）
- 西川 敬子 徳島県女流美術協会小品展・スモールアートアンデパンダン展（フリースペース 大道ギャラリー）、第95回徳島県女流美術協会展・第34回仙台・徳島文化交流展・洋画部会員展・徳島平和美術展（郷文）、夫婦展（花杏豆）、徳島アート21第3回展（阿波銀プラザ）
- 西川 周三 夫婦展（花杏豆ギャラリー）、徳島アート21第3回展（阿波銀プラザ）、洋画部会員展（郷文）
- 西川 照美 洋画部会員展（郷文）、アトリエバクグループ展（阿波銀プラザ）
- 西崎 志帆 洋画部会員展・平和美術展（郷文）、洋画3人展（GLACE）、月曜会展（ファンファーレ）、昭和美術会展（京都市立美術館）、昭和美術会徳島支部展（阿波銀プラザ）
- 林 静代 洋画部会員展・徳島市芸術祭美術展（郷文）、アトリエ・バク展（阿波銀プラザ）
- 林 信夫 洋画部会員展（郷文）
- 林 康太郎 美術文化徳島グループ展・美術文化四国支部展（阿波銀プラザ）、第65回美術文化展（東京都立美術館）、洋画部会員展（郷文）
- 平田スミコ 第59回女流画家協会展（東京都立美術館）、洋画部会員展（郷文）、第3回徳島版画会展（阿波銀プラザ・M&M・阿波和紙伝統産業会館）、版画作家による年賀状展（相生森林美術館）
- 平松 智子 青美展・洋画部会員展（郷文）、鴨島グループ展（阿波銀プラザ）、鴨島・市場・阿波町交流展（各町文化センター）
- 福本 武子 東光会展：会友出品（東京都立美術館）、洋画部会員展・東光会徳島支部展（郷文）
- 福良 哲子 洋画部会員展・徳島市芸術祭文化展：招待出品・徳島新聞カルチャー展

(郷文)、八紅展(阿波銀プラザ)、徳島県秀作巡回美術展(県内)、加茂谷文化祭(加茂谷公民館)

- 藤井 香世 第65回美術文化展(東京都立美術館)、第65回関西美術文化展(大阪市立美術館)、美術文化四国支部展(阿波銀プラザ)、15人展(ヨンデンプラザ徳島)、徳島平和美術展(郷文)
- 藤本 晴子 第90回二科展(東京都立美術館)、黄金芸術の宴(ドバイ市)、第7回北京芸術博覧会(中国国際貿易センター)、日墮芸術交流祭(ウィーン)、日仏久遠の栄光祭(東京ドームホテル)
- 藤丸 家栄 洋画部会員展(郷文)、徳島アート21第3回展(阿波銀プラザ)
- 堀江 幸子 洋画部会員展・青美展・鴨島美術グループ展(郷文)、ピーコック・サークル展・鴨島文化サロン展(本郷ギャラリー)
- 堀切 薫子 青彩美術展(徳島市シビックセンター)、藍美展(藍住福祉センター)、洋画部会員展(郷文)
- 増井 厚子 洋画部会員展(郷文)
- 榊田 務 東光会徳島支部展・洋画部会員展(郷文)、四国大学教員展・四国大学芳藍展(四国大学交流プラザ)
- 松尾 彰滋 第81回白日会展(東京都立美術館)、鴨島美術グループ展(阿波銀プラザ)
- 松川 寛 第55回モダンアート協会展(東京都立美術館)、洋画部会員展・第17回燎4人展・石井美術の会作品展(郷文)、関西モダンアート展(奈良)
- 真野 孝彦 第8回鴨島町・市場町・阿波町3町交流展(各町文化センター)、第27回鴨島グループ展(阿波銀プラザ)、美術を詠む展・第61回青美展(郷文)
- 馬淵 博子 洋画部会員展(郷文)、アトリエバクグループ展(阿波銀プラザ)、神戸二紀女流新人展(神戸)
- 三沢 尚子 第62回関西水彩画会展(大阪市立美術館)、第17回燎4人展・第95回徳島県女流美術家協会展・洋画部会員展(郷文)、第6回ペアーレ水彩展(阿波銀プラザ)
- 水間 利生 第65回美術文化展(東京都立美術館)、美術文化四国支部展(阿波銀プラザ)、洋画部会員展(郷文)、世代美術展(徳島市シビックセンター)
- 三谷多美子 洋画部会員展(郷文)、美馬市文化祭(ウダツアリーナ)、レモンの会展(貞光ゆうゆう館)
- 三谷ミヤ子 洋画部会員展・徳島市芸術祭美術展:招待出品(郷文)、第3回徳島版画会展(阿波銀プラザ・阿波和紙会館)、八紅展(阿波銀プラザ)、東富田文化展(東富田コミセン)、八万文化展(八万コミセン)

- 峯 幸子 第95回徳島県女流美術家協会展・洋画部会員展（郷文）、アトリエ・マイ  
ン展・む・アート展（阿波銀プラザ）、日本表現派展（東京都立美術館）
- 三好 初子 東光展：会員出品（郷文）、第95回徳島県女流美術家協会展・第34回徳島  
仙台文化交流展・洋画部会員展・東光会徳島支部展・徳島市芸術祭美術  
展：招待出品（郷文）、藍美展（藍住福祉センター）
- 毛利 谷子 東光会展：会員出品（東京都立美術館）、東光会徳島支部展・石井美術の  
会展（郷文）
- 山口 和子 青彩美術展（徳島市シビックセンター）、洋画部会員展（郷文）
- 山口美千代 洋画部会員展・青美展（郷文）
- 結城 栄子 よりみち二人展（ギャラリー喫茶バンサン）
- 真鍋 弘子 洋画部会員展（郷文）、徳島アート21第3回展（阿波銀プラザ）

# 写 真 部

部 会 長 櫛 淵 魏

## 年間展望

### ◎第60回記念県美術展（第1期11月12日～20日 県郷土文化会館）

今回の応募総数783点、出品者数268人であった。審査員には九州産業大学大学院教授、江成常夫先生をお迎えした。審査結果、特選4点、準特選9点、奨励賞9点、入選147点が選ばれた。審査評として「写真は時代や自身の心を写す鏡、デジタルの時代になって表層的な技術に頼りがちだが、いくら複雑な作品でも心がなければ意味がない。審査でも方法論や技巧ではなく、進行する「今」を的確に切り取り、撮影者の心の中が見えるような批評性や、物語性に富んだ作品を選んだ」との言葉をいただいた。

特 選	「史実に母校名有・只・合掌」	矢部 弘子 (特別賞・記念大賞)
〃	「不透明な記憶」	西野 倫子
〃	「北天への願い」	久保 英樹
〃	「語らい」	国見 良幸
準特選	故島 永幸・播 博文・岩崎 英昭・岡村 清 井上 翔・大栗 隆夫・多川 静守・田中 伸廣 林 邦光	

開催前夜の11月11日午後6時から、阿波観光ホテルで第60回記念県展の表彰式とオープニングパーティーが華々しく挙行された。

### ◎第14回放美展（5月4日～8日 県郷土文化会館）

本年度の応募総数494点、出品者数202人であった。審査員は櫛淵魏、荒井賢治、武内亨の3人が担当した。審査の結果、放美賞1点、優秀賞20点、入選171点を選出した。

放美賞	「櫻花幽玄」	平野 史子
優秀賞	吉崎 伝・根ヶ山 治・神野 太三・志摩 育美 野口 真・溝淵 寛治・四宮 正恵・棚橋 仁志 原田 宏・西野 倫子・板東 敏晴・佐野 和史 松家 安信・片岡嘉寿代・播 博文・山中 利治 目崎 全昭・石川 徹雄・野藤 敏美・森住 博	

◎平成17年度徳島県秀作巡廻美術展（10月～11月県内各地）

写真部からは、上野照文、林敏彦、井藤光章、大和健司の4氏が出品した。

◎県美術家協会 写真部撮影会（6月26日）

毎年1度の撮影会は昨年的好评に引続いて京都となり「花・華・京都撮影会」のテーマで会員を募集。34人が参加した。徳島駅前7時出発、10時前に平安神宮駐車場到着、解散、各自で神宮、美術館、動物園、寺々、祇園など廻り、15時出発、18時全員無事帰着した。撮影会の企画、開催、運営には次の各委員にご尽力いただいた。

三木 晴夫・井藤 光章・古井 謙吉・林 敏彦  
井上 憲治

会員の訃報

酒井博司氏が7月1日ご逝去されました。氏は長年に亘り、美協理事、写真部委員、放美展運営委員、県展運営委員として県写真界のため大いに貢献されました。享年74才。心からご冥福をお祈り申し上げます。

各分野での会員の活動状況 ～中央展・個展・団体展など～

◎第3回全日本動物写真コンテスト（5月9日～14日 大阪アサヒコムホール）

入 選：根ヶ山美江

◎第30回JPS（日本写真家協会）展（5月21日～30日 東京都美術館ほか）

会 員 出 品：上野 照文

◎全日本写真展（8月1日～6日 銀座ニコンサロンほか

徳島展 06年1月20日～22日 徳島市シビックセンター）

都道府県優秀賞：三木 理司

◎第53回二科会写真部展（9月1日～16日 東京都美術館）

会 員 出 品：荒井 賢治（大竹省二賞）

会 友 出 品：森住 博・大和 健司（会友努力賞）

公 募 入 選：西條 征二（会友推挙）

平野 史子（エイエムエス賞）

石川 徹雄・四宮 正恵・国見 良幸・志摩 育美



柳川 信子・播 博文・梅本 貞範

◎第52回阿波踊り写真コンクール（10月15日～22日 徳島市阿波おどり会館）

準 特 選：柳本 正

入 選：岡村 清・岸田 義市・佐藤 考利・佐野 辰夫・板東 敏晴

◎第12回朝日四国写真展（11月20日 高知市で審査 徳島展は06年1月20日～22日）

徳島県知事賞：井上 憲治

特 選：阿部 啓三・三木 晴夫・川真田慶治

奨 励 賞：久我 千鶴・井藤 光章

入 選：森住 博・野藤みきよ・上杉 大一・栗田ふさえ・根ヶ山 治

根ヶ山美江・林 敏彦

◎第39回日本光画会「光」展（1月8日～10日 徳島市シビックセンター）

会 員 出 品：佐藤 義雄

◎第12回徳島コンタックスクラブ写真展（1月19日～23日 ヨンデンプラザ徳島）

代 表：荒井 賢治

出 品 者：赤木 昭子・荒井 賢治・梅本 貞範・大津 勝治・国見 良幸

西條 征二・佐々木敏幸・田中 伸廣・土橋 成行・播 博文

板東 敏晴・板東 律雄・平野 史子・藤田 卓嗣・前坂 祥文

正見 晃章・宮本 幸治・向 儀一郎・森 賢一・森内 昭男

森住 博・大和 健司

◎第20回全日本写真連盟県本部展（2月4日～6日 徳島市シビックセンター）

県本部委員長：井藤 光章

出 品 者：武林 恭史・根ヶ山 治・根ヶ山美江・野藤 敏美・野藤みきよ

橋本 圭祐・林 敏彦・姫田 慎治・古井 謙吉・三木 晴夫

三木 理司・森 賢一・森住 博・吉村 敏嗣・阿部 啓三

栗田ふさえ・井藤 光章・井上 憲治・井上 光雄・上野 照文

川真田慶治・櫛淵 魏・久我 千鶴・西條 征二・酒井 博司

佐治 孝・佐藤 義雄・清水 定七

◎第5回写好館クラブ写真展（2月25日～28日 阿波銀プラザ）

出 品 者：岸田 義市・藤井 梵

◎英藍フォトクラブ作品展（3月4日～6日 阿波銀プラザ）

代 表：藤川 光昭

出 品 者：上野 照文・藤川 光昭

◎第36回ナルトぴんぼけクラブ写真展（4月1日～3日 鳴門市立図書館）

会 長：板東 敏晴

◎第6回ニコールクラブ徳島支部展（4月16日～18日 徳島市シビックセンター）

支 部 長：櫛淵 魏

出 品 者：阿部 啓三・井藤 光章・川真田慶治・櫛淵 魏・西條 征二  
佐治 孝・佐藤 義雄・清水 定七・中川 定典・根ヶ山 治  
根ヶ山美江・野藤 敏美・野藤みきよ・藤田 卓嗣・古井 謙吉  
堀口 幸男・三木 晴夫・三木 理司

◎第22回サンカ会写真作品展（4月16日～18日 徳島市シビックセンター）

会 長：森内 昭男

出 品 者：田中 伸廣・森内 昭男

◎徳島風景写真協会 自然の四季風景写真展（4月20日～24日 徳島市シビックセンター）

会 長：大貝 久義

◎大貝久義個展「四季折々の思い出写真俳句集」

（4月15日～5月1日 徳島市シビックセンター）

◎第23回写真集団「風」作品展（5月13日～15日 徳島市シビックセンター）

代 表：安長 剛

出 品 者：小林 保子・堀口 幸男・安長 剛

◎ユニットD 5th. デジグラフィ作品展（5月27日～29日 徳島市シビックセンター）

代 表：上野 照文

出 品 者：上野 照文・橋本 圭祐・林 敏彦・多川 静守・井上 憲治  
多田 晴美・柳本 正

◎第28回写真同人「炎」作品展（6月3日～5日 徳島市シビックセンター）

代 表：西條 征二

出 品 者：阿部 啓三・荒井 賢治・粟田ふさえ・井藤 光章・井上 憲治  
川真田慶治・櫛淵 魏・久保 英樹・後藤 和美・西條 征二  
佐治 孝・武林 恭史・田村 泰弘・伊達 照子・土橋 成行  
中川 定典・野口 佳一・林 敏彦・姫田 慎治・古井 謙吉  
堀口 幸男・森 賢一・安長 剛・大和 健司・吉崎 伝

◎第11回徳島ライカクラブ写真展（6月14日～16日 ヨンデンプラザ徳島）

会 長：武内 亨

出 品 者：武内 亨・藤井 梵・森 光・後藤 能大

◎木田英之写真展「雲が行く…」（6月20日～30日 上八万町花杏豆ギャラリー）

◎第8回麻植写友クラブ写真展（7月2日～31日 カメラのキタムラ鳴島店ギャラリー）

会 長：佐野 辰夫

◎第10回写一会写真展（7月22日～24日 ヨンデンプラザ徳島）

会 長：後藤 正己

出 品 者：後藤 正己・三木 恭子・宮崎 行弘・安部 幸子・矢野 志江

◎新浜写真クラブ作品展「私風景」（8月10日～15日 そごう徳島店7階特設会場）

会 長：荒井 賢治

出 品 者：赤木 昭子・荒井 賢治・梅本 貞範・国見 良幸・佐々木敏幸  
土橋 成行・西野 倫子・播 博文・板東 律雄・平野 史子  
前坂 祥文・宮本 幸治・向 儀一郎・森住 博・大和 健司

◎第19回徳島花を写す会写真展（8月19日～21日 徳島市シビックセンター）

出 品 者：故酒井 博司（前会長）・久保 英樹・佐藤 義雄・清水 定七  
吉村 敏嗣

◎第45回写楽会写真展（9月9日～11日 徳島市シビックセンター）

会 長：櫛淵 魏

出 品 者：栗田ふさえ・上野 照文・川真田慶治・櫛淵 紳哉・櫛淵 魏  
中川 定典・古井 謙吉

◎第7回写友吉野川写真展（9月23日～26日 徳島市シビックセンター）

会 長：岩崎 英昭

出 品 者：岩崎 英昭・矢部 弘子

◎日本リアリズム写真集団徳島支部写真展（9月23日～25日 ヨンデンプラザ徳島）

出 品 者：木田 英之・藤井 梵

◎第2回大貝久義個展「四季折々の思い出写真俳句集」

（10月1日～16日 徳島市シビックセンター）

◎2005年後期徳島風景写真協会 自然の四季風景写真展

（10月1日～7日 徳島市シビックセンター）

会 長：大貝 久義

◎第4回キャノンフォトクラブ徳島写真展（10月10日～12日 ヨンデンプラザ徳島）

出品者：池添 秀信・石川 徹雄・柳川 信子・矢部 弘子

◎第8回「写光」写真展（11月11日～13日 ヨンデンプラザ徳島）

出品者：安部 幸子

◎第7回徳島シニアライフクラブ写真展（11月15日～17日 ヨンデンプラザ徳島）

出品者：大西 啓子

◎佐野辰夫写真展「徒遍路阿波路ゆく」（11月16日～18日 徳島市シビックセンター）

◎大和健司写真展「県展回顧録」（11月26日～28日 徳島市シビックセンター）

◎第10回しゃらくの会写真展（12月9日～11日 ヨンデンプラザ徳島）

出品者：柳川 信子・矢部 弘子

# 彫 刻 部

部 会 長 松 永 勉

## 年間展望

### ◎第60回記念県美術展（平成17年11月12日～20日）

今回の審査員は東京芸術大学助教授で新制作協会会員の北郷悟先生にお願いした。出品点数は21点で、そのうち入賞・入選13点が選ばれた。総数では前回より4点減となったが、木、石、金属等で実材を使った作品、大きな作品等が目立ち、内容的には幅広い傾向の作品が出品された。審査はすべての作品を丁寧に見ていただき、入賞・入選を熟考のうえ決定していただいた。審査後には北郷先生による個別のアドバイスがそれぞれの制作者に述べられ、作者は熱心に聞き入った。

審査評として「丸太やプラスチックなどバリエーションに富んだ素材を使用したユニークな作品が目をつけた。視野を広くもち新しいことにチャレンジしている人が多いように思う」と話された。「記念大賞：特選（四国放送社長賞）」に選ばれた武田亜希子さんの“未来観測”は、テーマ性が強く作者の豊かな感性がよく現れている。美しいフォルムから宇宙全体をイメージすることもできるし、地球そのものの姿も伝わってくる。技術的にもすばらしい。ただ、正面から見たときと、後ろから見たときの関係を保つためには、台座は四角より円の方がよかっただろう」との評価をいただいた。武田さんは放美展や中央展でも活躍している若手の女性作家であり、このところ鉄板を利用した構成的作品をよく研究されている。今回の受賞はこれまでの努力の結果であり、今後のさらなる作品の展開を期待したい。「準特選の安藝淳二さんの作品“森を運ぶ船”は、木の角材21本を等間隔で船の形に並べた美しい作品だ。船の中央部の角柱の上に削り出された柔らかな形の木々が並び森を連想させる。角柱の規則正しい配列に時間の流れがうまく表現されている」との評価をいただいた。安藝さんは生活の中から生まれくる形を木を使って表現しようとしている。コツコツと取り組んだ跡が見える作品で、これからも自分の詩を創作してほしい。「同じ準特選の津越真由美さんの“ひまわり”は裸婦像で、腰掛けたフォルムのバランスが非常に良い。内面から人間像をとらえたもので、作者の率直な表現力に今後の可能性を感じる。台に乗せた作品の目線を上げれば、下の空間も取り込めてよりよく仕上がったと思う」との評価をいただいた。具象作品の中では表現力のある作品であり今後を期待したい。全体評として「技術的には十分な作品も多く、今後はより実験的な仕事を期待したい。大作に挑んだ高校生の作品も高く評価した

い。人間の形をよく観察すること、ギャラリーでの展示を意識した仕事を心掛けるとも  
っと良くなるだろう」とも話された。

◎第14回放美展（平成17年5月4日～8日）

今年の出品総数は23点で前回より6点多く活気あるスペース構成となった。出品作品  
は具象作品が14点あり、抽象作品はやや少なかった。

放美賞の井上喜美さんの“つぼみ”は「量感表現が優れた裸婦像で、未完な部分もあ  
るがよく全体にまとまっている。今後の成長が期待される」との評価で選ばれた。座し  
た全身像で着彩も上手にできていた作品であった。優秀賞には二宮治夫さんの“大樹の  
叫”が選ばれた。この作品に対しては「木を巧みに使った迫力ある大作だ、構成にもう  
少し工夫がほしかった」との評価であった。

その他、入選作の中では野村優さんの“春風”は温かみのある全身像の力作であり、  
武田亜希子さんの“Dream Station”は鉄材で構成した秀作であり、津越真由美さんの  
テラコッタ作品“春風”は材質感が素晴らしくよくできているとの意見が述べられた。  
また高校生は若々しい多くの魅力のある作品があり、今後の活動に期待したいとの感想  
であった。（今回の審査は鎌田邦宏、濱口恵、長岡強が務めた）

会員消息

（県展・放美展関係は除く。順不同。）

居上 真人	1月	四国霊場一番札所霊山寺に作品設置	霊山寺
	4月	県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	9月	第80回二科展出品	東京都立美術館
	9月～11月	第43回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
井下 俊作	4月	県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	9月	第60回行動美術展：会員出品	東京都立美術館
	9月	第60回行動美術展大阪巡回展：会員出品	大阪府立美術館
	9月～11月	第43回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
	10月	那賀川源流モニュメント「那賀川源流の碑」設置	那賀川町
大津 文昭	4月	県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	9月～11月	第43回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
	11月	彫刻作品設置（野外）	牟岐町
河崎 良行	4月	県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	4月	個展	東京銀座ギャラリー「せいほう」
	5月	日本・ルーマニア文化交流2005年展	東京芸術劇場ギャラリー

	8月	二紀彫刻三人展	徳島市ギャラリー「M&M」
	8月	第20回記念徳島二紀展	県郷土文化会館
	10月	第59回二紀展	東京都立美術館
	10月	徳島県秀作巡回美術展	県内
鎌田 邦宏	4月	県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	4月	二紀会会員彫刻展	東京銀座ギャラリー「青羅」
	8月	二紀彫刻三人展	徳島市ギャラリー「M&M」
	8月	第20回記念徳島二紀展	県郷土文化会館
	10月	第59回二紀展	東京都立美術館
上月 佳代	4月	県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	8月	第20回記念徳島二紀展	県郷土文化会館
	10月	第59回二紀展（同人優秀賞受賞）	東京都立美術館
	10月	徳島県秀作巡回美術展	県内
佐藤 隆	4月	県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	9月～11月	第43回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
濱口 恵	1月	第38回モダンアート徳島支部展（版画出品）	阿波銀プラザ
	4月	第55回モダンアート展（版画出品）	東京都美術館
	4月	県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	9月～11月	第43回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
松永 勉	1月	第33回徳島市芸術祭美術展：招待出品	県郷土文化会館
	3月	秋田県井川町に「風景のハーモニー」設置	秋田県井川町
	3月	個展	徳島そごう
	4月	県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	6月	中国丹東市美術館に作品「異風景・地・種・芽」設置	中国丹東市
	7月	洞爺村国際彫刻ビエンナーレ2005、2次審査通過賞上	北海道洞爺村
	9月	第60回行動美術展：会員出品	東京都立美術館
	9月	第60回行動美術展大阪巡回展：会員出品	大阪府立美術館
	9月～11月	第43回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
	10月	徳島県秀作巡回美術展	県内
東 光司	1月	第38回モダンアート徳島支部展	阿波銀プラザ
	3月	三世代親子展	徳島メガネ石井店
	4月	県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	11月～18年1月	東光司石の彫刻展	神山温泉ふれあい公園

長岡	強	3月	第81回白日展：会員出品	東京都美術館
		4月	第35回日彫展：会員出品	東京都美術館
		10月	徳島県秀作巡回美術展	県内
		11月	第37回日展：依頼出品	東京都美術館
林	一美	4月	彫美会展	四電プラザギャラリー



# 美術工芸部

部会長 山上 馨

## 年間展望

### ◎第60回記念県美術展（平成17年11月12日～20日 県郷土文化会館）

平成17年（2005年）第60回記念県美術展：美術工芸部門の応募点数は227点、出品者は159人であった。前回展に比べて応募点数が18点、出品者数で10名の増加となり記念展にふさわしい盛況となった。審査は極めて厳正に各ジャンルからの賞候補30点から入賞10点（特選2点、準特選4点、奨励賞4点）が選ばれ、入選126点と無審査出品12点を加えて、総展示作品は148点となった。

今回の審査員は東京芸術大学副学長の宮田亮平先生にお願いした。審査評としては、「7年ぶり2度目の審査だが、すごくレベルが高く、60回の歴史を感じた。甲乙つけ難く、最後に賞を決めるときは、自分が賞をもらったときのような鼓動の高まりすら覚えた。審査は作品に個性がきちっとあるか、自分の表現したいものが作品のコンセプト（concept）にあるか、をポイントにした。また、美術工芸は素材の強さに個性が負けることがあるが、素材を生かした表現ができていないか、という点も見た。県美術家協会賞（記念大賞・特別賞）の藤井哲信「祭器」（ガラス工芸）は、日本的な雅（みやび）の世界とギリシャ・古代ローマの世界の造形美がうまく合致している。空間を上手に生かしているのも面白く、いわゆる現代的な感じを出している。さらに我流でなく、作家の気持ちが見る人にも、使う人にも分かる。置くだけでも、花を生けても生きてくる。そんな美術工芸ならではの素晴らしさがある。

特選の大貝寿子「無月」（陶芸）は表にある円が、左右、裏と同じように描かれている。「黒い太陽」を思わせ、透明感と力強さを感じる。土のもつやわらかさと、焼きしめることによって出る硬さとのコンビネーションも大変よくできている。陶芸しかできない味わいのある作品だ。

ジャンルが多岐にわたり、地場産業である陶芸がしっかりしている。パッチワークキルトなど布を使った作品も頑張っている。さらに、レベルの高いガラス工芸も印象に残った。ただ、金工や漆の作品が少ないのが残念であった。奮起を期待したい。美術の作品は「マル」か「バツ」ではなく、すべてが「マル」だ。ただ、作家の思いがどれだけ伝えられているか、その量が問題と思う。」と述べられている。

以上第60回県展図録から審査員総評を転載させていただいた。これは公開審査という

異常な雰囲気の中で、出品者の思いを込めた作品を1点ずつ手に取るように丹念に見ていただき、入落を決め、入選作品の中から各ジャンルの賞候補30点を選抜、一堂に集め賞を決定するという手間のかかる審査をしてくださった審査員の先生の指導的なご配慮を感じたものである。一連の審査の手順から、総評を読み返してみると、素材への取り組み方、表現の主題・意図の大切さ等、美術工芸に携わる私達に貴重な示唆をいただいたように思う。更に審査員の宮田亮平先生には12月21日学長就任というご繁忙のときにもかかわらずご審査いただいたので「審査員を囲む会」を開催することもままならず、十分な謝意を表することもできない中、時間の許すかぎり、すべての作品について指導的な講評をいただいたことは、本県美術工芸の発展を期待する熱いエールであったと思う。深甚の謝意を表したいものである。

特 選	(記念賞・県美術家協会賞)	藤井 哲信 (ガラス)「祭器」
特 選		大貝 寿子 (陶 芸)「花器 (無月)」
準特選		大貝 貞雄 (陶 芸)「広口壺 (陽ざしの中で)」
〃		四十宮年代 (染 色)「追憶」
〃		坂東佳代子 ( 織 )「翼」
〃		鳥井 明子 (ハッチワーク)「メリーゴーランドかな」
奨励賞		木田サチコ (かづら)「宇宙の華」
〃		山田 和子 (七 宝)「兆し」
〃		小幡 千鶴 (陶 芸)「夢喰うバクの夢」
〃		山本 和子 (染 色)「波間」

#### ◎第14回放美展 (平成17年5月4日～8日 県郷土文化会館)

美術工芸部門の応募点数は205点、出品者は139名で過去最多となった。陶芸が半数を占めているものの各ジャンルの作品が出揃い盛況を呈した。

審査は一次審査で142点の入選を決め、その中から20点の賞候補作品を選抜、最終入賞作品9点(放美賞1点、優秀賞8点)を選んだ。展示は放美賞1点、優秀賞8点、入選133点、無審査出品8点で総展示数150点となった。

放美賞の田村佳代「流れ」は端正で重量感のあるフォルム、テーマを強く感じさせる口元の処理と釉薬の色調を見事に昇華させた洗練された造形感覚あふれる秀作である。作者の日頃の作陶への取り組みが伺える。優秀賞の吉田陽子「釉象嵌壺 (春の音)」はふくよかなフォルム、白釉を基調にした柔らかい象嵌による文様がやさしい気品をただよわせている。加藤伴江「青春のとき」は少女の頭像を思わせる花器、線と泡の流れるような半透明の色調に主題への迫り方が伺える秀作である。玉木隆子「細流」はかずらの特性を生かした造形性と編みの技術を調和させたフォルムの美しさが見事である。渡

辺恵美子「深淵」は月明かりの中の深い水面を感じさせる秀作で、パッチワークの主題性の追求の仕方に造形性を拓く意欲が伺える。大西道夫「船港もよう木彫つづりー2」は選び抜いた素材を力強く彫りで生かし、大胆な画面構成で主題を追求していく迫力が見事である。田村栄一郎「海の想い」は大らかなフォルム、感性豊かな色調で造形性の高い上品な作風に魅力を感じる。清水晶子「グラスアート（ユリ）」は本県では新鮮なガラスの透明性を生かした作品、主題の選び方、画面構成で迫力のある表現を期待したい作品である。

受賞作品、賞候補にあがった作品はいずれも、それぞれのジャンルで素材を生かし、新しい個性的な表現を試みた作品で、新鮮さと美術工芸の魅力を感じさせるものがあつた。（審査員：七条猪三郎、松下雄介、橘恵）

- |     |                           |
|-----|---------------------------|
| 放美賞 | 田村 佳代（陶 芸）「流れ」            |
| 優秀賞 | 吉田 陽子（陶 芸）「釉象嵌壺（春の音）」     |
| ♪   | 加藤 伴江（ガラス）「青春のとき」         |
| ♪   | 玉木 隆子（かずら）「細流」            |
| ♪   | 渡辺美恵子（パッチワーク）「深淵」         |
| ♪   | 松島 典子（染 色）「海へ来た日」         |
| ♪   | 大西 道夫（木 彫）「船港もよう木彫つづりー2」  |
| ♪   | 田村栄一郎（陶 芸）「海の想い」          |
| ♪   | 清水 晶子（グラスアート）「グラスアート（ユリ）」 |

## 会員消息

（県展・放美展は除く）

- |       |                       |     |              |
|-------|-----------------------|-----|--------------|
| 天野 和子 | ・コンクリート・ニ・モル          | 2月  | ギャラリー北野坂     |
|       | ・JQA一人一点キルト展in横浜      | 3月  | 神奈川県民ホール     |
|       | ・第44回日本現代工芸美術展        | 3月  | 東京都立美術館      |
|       | ・スローアートゆるい展           | 4月  | 県立文学書道館      |
|       | ・アトリエバク・グループ展         | 7月  | 阿波銀プラザ       |
|       | ・世界キルト作家100人展         | 8月  | 高松・三越        |
|       | ・ヒーリング・ハート・キルト        | 9月  | 兵庫県民アートギャラリー |
|       | ・デザインドリーム展            | 10月 | 県木工会館        |
|       | ・天野和子版画展              | 11月 | ギャラリー喫茶グレイス  |
|       | ・徳島版画展                | 11月 | 阿波銀プラザ       |
|       | ・インターナショナルキルトフェスティバル  | 11月 | ヒューストン       |
| 太田 裕子 | ・エコロジー・アース・アート21上海国際展 | 4月  | 上海中国画院       |

	・アジアにおける日本美術展（優秀賞）	8月	シリキート王妃記念美術館
	・和創画（優秀作家賞）	8月	世界文芸社
越 由子	・USAワールドキルトコンテスト	10月	アメリカ・ミシガン州
	・ふう布パッチワークキルト展	11月	徳島市シビックセンター
多智花佐代子	・第44回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・第37回日展	11月	東京都立美術館
	・第43回現代工芸美術家協会四国会展	12月	高松・三越
九十九健二	・第一美術展	5月	東京都立美術館
富田ちえ子	・日本染色作家10名の作品との交流展	11月	香川牟礼町石の民族資料館
永山昭一郎	・第29回創作陶芸展	7月	徳島市シビックセンター
新居 猛	・「椅子のデザイン」	1月	埼玉県立近代美術館
	・Seeing Japan「日本のうるわしき姿」作品掲載	2月	講談社
	・「NYチェアシリーズにおける新居猛のデザイン思想」	6月	日本デザイン学会
	・「新居猛・椅子のデザイン」	8月	徳島城博物館
	・オンウエー社と椅子日中合作	9月	広州市
	・「We Love Chairs」作品掲載	11月	誠文堂新光社
	・「好きな仕事で社会に報いよう」特別講演	12月	大阪産業大学
西 浩子	・第34回仙台・徳島文化交流美術展	4月	県郷土文化会館
村上 正典	・徳島の陶芸展	4月	県郷土文化会館
	・第29回創作陶芸展	7月	徳島市シビックセンター
	・正倫会陶芸展	9月	ヨンデンプラザ徳島
森 賢一	・第44回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・第37回日展	11月	東京都立美術館
	・第43回現代工芸美術家協会四国会展	12月	高松・三越
山本 和子	・第44回現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・第16回全国現代クラフト展	9月	県郷土文化会館
	・第6回全国阿波藍染織作家協会展	11月	静岡県立美術館
	・第43回現代工芸美術家協会四国会展	12月	高松・三越
吉田 祐子	・テーブルウエア・フェスティバル展	2月	東京ドーム
	・朝日現代クラフト展	5月	阪急百貨店うめだ本店
四十宮年代	・第33回徳島市芸術祭美術展	2月	徳島市シビックセンター
	・第40回記念中部染色展	7月	名古屋市博物館
	・第20回国民文化祭ふくい2005	10月	福井市美術館

綾野 昌子	・ 第15回記念工芸美術日工会展	6月	JR名古屋・高島屋
	・ 第37回日展	11月	東京都立美術館
田村栄一郎	・ 第27回日本新工芸展	5月	東京・上野の森美術館
	・ 日本新工芸四国会展	8月	高松・三越
	・ 日本新工芸四国会工芸逸品展	11月	高松・モリシゲ
田村 純子	・ 第27回日本新工芸展	5月	東京・上野の森美術館
	・ 日本新工芸四国会展	8月	高松・三越
	・ 日本新工芸四国会工芸逸品展	11月	高松・モリシゲ
田村 祐子	・ 第34回仙台・徳島文化交流美術展	4月	県郷土文化会館
	・ 第18回日工会工芸美術四国会展	5月	高松・三越
	・ 第15回記念工芸美術日工会展	6月	JR名古屋・高島屋
	・ 第37回日展	11月	東京都立美術館
矢野 款一	・ 日本伝統工芸展	5月	東京・日本橋三越
	・ 日本工芸会四国支部展	11月	高松・三越
	・ 徳島県陶芸作家展	11月	徳島市シビックセンター
影谷美代子	・ 小松島市芸術祭染色展	11月	小松島市中央会館
斎藤 和彦	・ 日本七宝作家協会展（協会賞）	7月	東京・上野の森美術館
青木 房江	・ 青木房江傘壽記念布絵展	4月	四電エネルギープラザ阿南
	・ 牟岐布絵グループ展	7月	四電エネルギープラザ阿南
	・ こんな達人おるんでよ展	9月	徳島・そごう
家形笑美子	・ 「かずら工芸むぎ笛」雑穀街道認定	12月	徳島プリンスホテル
小栗加代子	・ 第44回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・ キルトウィーク長野	4月	長野ビックハート
	・ 日展二人展	4月	海南文化村博物館
	・ キルトウィーク大阪	6月	大阪ドーム
	・ 阿波の達人展	9月	徳島・そごう
	・ パシフィックインターナショナルキルト展	10月	細サウクラフコンベンションセンター
	・ 日本コンベンポラリーキルト展	11月	キルトウィーク横浜（横浜国際展示場）
	・ 小栗加代子 日展への軌跡展	11月	キルトウィーク横浜（横浜国際展示場）
橋 恵	・ 藍染夫婦展	2月	徳島工芸村イベントホール
	・ 藍染作品展	8月	徳島工芸村イベントホール
松下 慶一	・ 松下慶一作陶展	1月	徳島・そごう
	・ 徳島の陶芸展	4月	県郷土文化会館

	・徳島県陶芸作家協会作陶展	10月	徳島市シビックセンター
	・日本工芸会四国支部展	11月	高松・三越
松下 雄介	・中国古窯「定窯」「磁州窯」「越州窯」視察研究	3月	中国
	・ドイツ・イギリス美術紀行 陶磁研究	8月	ヨーロッパ
	・美術紀行「太陽とロータス」共著出版	11月	リサーチ出版
丸居 哲雄	・エナジー2005	9月	文化の森21世紀館
	・上板町美術愛好会作品展	11月	上板町・技の館
	・上板町文化祭	11月	上板町・技の館
川真田 弘	・川真田弘藍型絵染展	9月	函館市・ギャラリー村岡
藤井 哲信	・酒の器展	1月	福井県あわら市アートコアミュージアム
	・藤井哲信ガラス展	6月	徳島・そごう
	・全国手づくりガラス展	7月	石川県地場産業振興センター
	・2005年高岡クラフト展	10月	富山県大和高岡店
大貝 貞雄	・第33回徳島市芸術祭美術展	2月	徳島市シビックセンター
	・第1回松慶塾作陶展	5月	ヨンデンプラザ徳島
	・第33回全国公募手工芸展（奨励賞）	10月	県郷土文化会館
大貝 寿子	・第33回徳島市芸術祭美術展（徳島市教育委員長賞）	2月	徳島市シビックセンター
	・第1回松慶塾作陶展	5月	ヨンデンプラザ徳島
	・第33回全国公募手工芸展	10月	県郷土文化会館
山田 和子	・第37回日展	11月	東京都立美術館
吉田 陽子	・陶芸文化振興財団展（陶芸財団奨励賞）	10月	埼玉県立近代美術館
富永 裕子	・アドバンテチャリティー展	3月	クリゾーン
	・第34回仙台・徳島文化交流美術展	4月	県郷土文化会館
	・Museum of Arto & Crafo ITAMI	5月	伊丹市立工芸センター
曾江 司	・第1回松慶塾作陶展	5月	ヨンデンプラザ徳島
	・高越陶芸クラブ展	9月	貞光ゆうゆう館
	・吉野川市文化祭	10月	鴨島町文化センター
	・山川町商工会文化祭	11月	山川町勤労者体育館
	・川島町文化祭	11月	川島町体育館
南 泰樹	・第1回松慶塾作陶展	5月	ヨンデンプラザ徳島
	・高越陶芸クラブ展	9月	貞光ゆうゆう館
	・第33回全国公募手工芸展（県議会議長賞）	10月	県郷土文化会館
	・吉野川市文化祭	10月	鴨島町文化センター

	・ 山川町商工会文化祭	11月	山川町勤労者体育館
南	郁代	・ 第1回松慶塾作陶展	5月 ヨンデンプラザ徳島
	・ 高越陶芸クラブ展	9月	貞光ゆうゆう館
	・ 第33回全国公募手工芸展	10月	県郷土文化会館
	・ 吉野川市文化祭	10月	鴨島町文化センター
	・ 山川町商工会文化祭	11月	山川町勤労者体育館

# 書 道 部

部 会 長 上 田 溪 水

## 年間展望

### ◎第60回記念県美術展（第二期 11月22日～29日 県郷土文化会館）

出品数は866点で、前回展より10点減であったが、出品者数は553名で22名増となった。展示数は、特別出品・招待・無鑑査・賛助出品46点と、入賞36点・入選324点を加えて、406点が会期中展示された。

今回の審査員は、伊藤天游、井茂圭洞、田岡正堂の三先生で精力的な審査をしていただいた。各先生の審査のポイント的なことを要約すると、漢字「先人の古典を追体験して自分の作品に活かされているかを基準にした。」仮名「文字の造形の美しさよりも、いかに伸びやかに線を書いているかを主眼とした。」近代詩文「墨量や太細、大小の変化、線の美しさやリズムなどをポイントにした。」前衛「白と黒のコントラストをポイントに、健康的で颯爽とした作品を選んだ。」

### ◎第14回放美展（5月4日～8日 県郷土文化会館）

出品総数は169点（前年比3点増）で、出品者数は157名（前年比4名増）となり、入賞・入選数は112点（前年比2点増）展示数は役員・無鑑査を加えて121点と前回展と同数であった。若年層の出品が増加したことはよろこばしい傾向である。

### ◎社中展・個展等

○ 亀石文苑書作展	徳島そごう美術画廊	1月4日～	10日
○ 第30回記念東玄書道会展	県郷土文化会館	1月5日～	8日
○ 第2回桂和会書展	徳島市シビックセンター	3月11日～	13日
○ 第18回長玄書道会展	県郷土文化会館	4月1日～	3日
○ 三美書研展	池田四電センター	4月1日～	3日
○ 退職記念日下溪翠書画展	徳島市シビックセンター	4月1日～	4日
○ 第68回徳島書芸院展	県郷土文化会館	4月13日～	16日
○ 第7回継色紙とかなの美展	県文学書道館	4月22日～	24日
○ 第1回尚石会書展	ヨンデンプラザ徳島	4月29日～	5月1日
○ 弘田長風ファミリー展	ギャラリーサルヴァドール	4月29日～	5月1日
○ 第20回記念県書道展	県郷土文化会館	5月28日～	6月5日
○ 第32回双暢会書展	県文学書道館	6月17日～	19日



○第12回大耽会書作展	県文学書道館	6月17日～	19日
○第23回双愛会書作展	徳島市シビックセンター	6月17日～	19日
○傘寿記念原皋聖書作展	県郷土文化会館	7月8日～	11日
○琴清会書作展	ヨンデンプラザ徳島	7月15日～	17日
○藍と書のコラボレーション	阿波銀プラザ	7月15日～	19日
○由源四国展	県文学書道館	7月16日～	18日
○翔和会かな書作展	徳島市シビックセンター	7月30日～	8月1日
○第35回直心会書展	県郷土文化会館	9月2日～	4日
○第12回荒井天鶴詞・書展	県郷土文化会館	9月8日～	11日
○第34回徳島雪心会書作展	県郷土文化会館	9月9日～	11日
○第4回一心会書展	県近代美術館	9月17日～	19日
○第28回泉心会書作展	阿波銀プラザ	9月23日～	25日
○第21回国際蘭亭筆会書法展	県郷土文化会館・文学書道館	9月28日～	10月5日
○第50回書協人展	県郷土文化会館	9月28日～	10月4日
○第5回書朋6人展	県文学書道館	10月7日～	10日
○第2回五果会書展	県文学書道館	10月14日～	16日
○第35回光輪社展	県文学書道館	10月21日～	23日
○第17回陸月会書展	徳島市シビックセンター	10月29日～	31日
○退官記念田村昇鶴書作展	四国大学交流プラザ	11月1日～	7日
○第2回現代書小品展	阿波銀プラザ	12月2日～	4日
○第10回記念尚真書展	徳島市シビックセンター	12月2日～	4日
○第20回記念正鋒会書展	徳島市シビックセンター	12月9日～	11日
○第11回六書会書展	ヨンデンプラザ徳島	12月23日～	25日
○第9回せせらぎ書展	徳島市シビックセンター	12月24日～	25日

## 個人消息 (県展・放美展・社中展は除く)

### 役員で出品した人・入賞者 (平成17年1月～12月)

- 第46回太玄会書展 (東京都美術館 1/11～16)

運営委員 春藤大耿

審査員 中尾勝子・岸田いち子

委員 亀石文苑・鈴木恵理・近藤静苑・富久鳴泉・大櫛一峰・岡島順子  
中西甫子・大塚秀峰・笠井宣江・古郷弘江・下村清子・西宇明美  
西谷香峰・廣島章子・南 溪石・吉田美重子

特別賞 小出圭子  
奨励賞 弘田長風  
推薦 馬居汀香  
特選 稲井華風・福井珠光  
準特選 泉 鳳玉・山城飛暉  
新人賞 福島由佳

○第59回日本書芸院2月展（大阪市美術館 2 / 15～20）

4月展（大阪市美術館 4 / 12～17）

常務理事 勝瀬景流

評議員 東 南光・伊丹東龍

一科審査員 東 弥生・上田溪水・河野真流・薄田玲泉・隅田英二・高田青連  
山口華城・吉田素川・米澤東籬

二科審査員 阿部珠雪・青木東原・井上虹雨・上田輝芳・沖田唐谷・海原暁風  
亀石文苑・川村春琴・倉本景雨・小西玉翠・小松美佳・清水桂月  
島田小園・谷 弘美・豊浦春光・長江頌石・能仁華瑤・長谷美峰  
鳩成青嶂・福永美泉・美馬幾美賀・宮守崇流・向井京子・森 光翔  
八木藍玉・矢部知子

大賞 宇山泰風・能仁華瑤・藤村柳葉・森 光翔

特別賞 井上虹雨・宇山耿鶴・沖田唐谷・谷 弘美・辻 尚子

特選 後藤佳美・背川景玲・橘 美希・藤井三樹子・藤川古径  
湊 景桃 吉田靖流

○東京書作展選抜作家展2005（東京都美術館 2 / 20～26）

選 抜 中尾勝子

○第41回創玄書道会展（東京都美術館 3 / 7～12）

名譽會員 荒井天鶴

一科審査員 荒井彭仙・長原皋聖

二科審査員 佐原和清・芝原醒鶴・多田清芳・玉城乾香・浜 佳香

学生部審査員 岩本志豪・大島溪石・大西清葩・佐藤宗香・高岡晃祥・永松春苑  
丸岡香貞

秀 逸 糸田川皐妙・上原瑞香・岡崎啓香・川端康清・武田玲香・長原皐月  
仁木志香・丸田恵風

二科賞 森岡嗣雅子

準二科賞 川上皐仙・早川美智子

- 第33回日本の書展関西展（大阪国際会議場 3 / 19～22）
  - 招待選 東 南光・伊丹東龍・勝瀬景流・春藤大耿・薄田玲泉
  - 秀抜選 荒井彭仙・河野真流・川村春琴・清水桂月・武市鳴雲・多田清芳  
玉城乾香・長江頌石・能仁華瑤・浜 佳香・古川秀蕙・松本深翠  
宮守崇流・吉田素川
- 第27回日本書学院展（東京都立産業貿易センター 3 / 26～28）
  - 大 賞 山本景琴
  - 準大賞 背川景玲
  - 奨励賞 井上晃流
- 第41回太玄会役員展（東京セントラル美術館 5 / 10～15）
  - 役 員 春藤大耿・亀石文苑・辻 尚子・鈴木恵理・南 溪石・近藤静苑  
富久鳴泉・中尾勝子・大櫛一峰・岡島順子・中西甫子・岸田いち子  
古郷弘江・下村清子・大塚秀峰・西宇明美・西谷香峰・廣島章子  
瀬藤豊子
- 第28回日本かな書展（東京日本橋高島屋 5 / 11～16）
  - 常任理事 藤若美風
  - 正 会 員 長谷美峰・松本清香・増田愛子
- 北海道の詩歌と書の世界 東京展（東京セントラル美術館 6 / 7～12）
  - 北海道展（北海道函館美術館 10 / 22～12 / 18）
  - 選抜出品 玉城乾香・浜 佳香
- 第57回毎日書道展 東京展（東京都美術館 7 / 8～17）
  - 四国展（愛媛県立美術館 8 / 9～14）
  - 参 与 荒井天鶴
  - 審査会員 荒井彭仙
  - 会 員 佐原和清・佐藤宗香・芝原醒鶴・多田清芳・玉城乾香・長原皋聖  
永松春苑・浜 佳香
  - 秀 作 上原瑞香・岡崎啓香・幸田清尚・武田玲香・西野涌泉・若林節子
  - 佳 作 榊原阜巴・渡邊香婉
- 第22回産経国際書展（東京池袋サンシャインシティ 7 / 23～31）
  - 専管理事 藤若美風
  - 理 事 増田愛子
  - 評 議 員 松本清香
- 第22回読売書法展 東京展（東京都美術館 8 / 5～9）

四国展（高松市美術館 10／5～9）

常任理事 勝瀬景流  
理事 東 南光・伊丹東龍・張 美鶴・薄田玲泉  
幹事 上田溪水・清水桂月・春藤大耿・隅田英二・高田青蓮・豊浦春光  
長江頌石・新居藍州・能仁華瑤・福永美泉・福家美鵬・古川秀蕙  
山口華城・吉田素川・東 弥生・上田輝芳・宇山泰鳳・亀石文苑  
河野真流・倉本景雨・佐川菁流・竹内虹舟・長谷美峰・宮守崇流  
評議員 川村春琴・島田小園・辻 紅雲・松永翠月・米澤東籬・赤川景舟  
井上虹雨・加村喜美子・詫間勝陽・武田和代・森 光翔・山本景琴  
俊英賞 亀石文苑・河野真流・東 弥生  
奨励賞 辻 尚子・山本景琴  
特選 井上晃流・春藤玉秀・宮崎聖鳳  
秀逸 井上麻紀・遠藤恵泉・遠藤玉秀・加藤秀玉・片山芳明・駒田水洗  
背川景玲・中野幸代・根津信流・林 美雪・福村幸流・向井美由希  
向井絵美・湊 景桃・吉田靖流

○第31回創玄現代書展（東京セントラル美術館 11／1～6）

出品 武田玲香

○第37回日展（東京都美術館 11／2～24）

委嘱 勝瀬景流

入選 東 南光・伊丹東龍・薄田玲泉・森 光翔

○寒玉展（大阪市美術館 11／10～15）

常務理事 長谷美峰

○第45回璞社書展（大阪市美術館 11／29～12／4）

相談役 上田溪水

参事 春藤大耿・吉田素川

参与 清水桂月・長江頌石・松本深翠

相談総務 東 南光

常任理事 駒田水洗・武市鳴雲・豊浦春光・能仁華瑤

理事 以西恆心・馬居汀香・岡島朱伯・海原暁風・小西玉翠・鈴木恵理  
高井春華・藤田喜美・松永翠月・八木藍玉・吉平伶光

評議員 片山芳明・黒田清蘭・春藤玉秀・鈴木恵理・田上洋香・谷口清水  
長尾愛香・花本清香・弘田長風

読売新聞社大阪本社賞 野口有香

璞社会長賞 大本華越

特別賞 河野多美・林 美雪

優秀賞 祖川瑠美・金子白雲・河野美鶴

特選 稲井華風・島 祥陽・春藤真紀・高原智世・谷本真由美・森本真由美

佳作 折上和美・久保光瑤・坂野祐煌・福井珠光

○第27回東京書作展（東京サンシャインシティ文化会館 11/29～12/4）

役員 中尾勝子・小出圭子・吉本道子

特別賞候補 木村弘子

奨励賞 妹尾敏子・西谷幸峰

# デザイン部

部会長 坂本 三千一

## 年間展望

来年19年は「第22回国民文化祭とくしま」が開催され、各市町村で準備が進んでいる。イベントとして本年秋には「第28回日本文化デザイン会議06 in とくしま」が開かれ全国から著名な方々が来徳され「フォーラム・座談会・デザイン会議」など多彩な行事が行われる。

平成17年（2005）の一年を開催月順に展望した。

### ◎第14回放美展（5月4日(水)～5月8日(日) 郷土文化会館

申込点数97点・応募点数86点、○放美賞1・「HELP」米澤麻美さん、○優秀賞3・「ナイトクルージング」籠谷弘高さん、「もちフェスタ in 月～月のYeah!」新居成美さん、「イラストレーション」千崎太郎さん、○入選41点となっている。

部会員では、笠井さつき、生田典子（2点）が入選、○審査員出品では福井章・斎藤繁次・田中一郎、運営委員出品では、坂本三千一と坂野美恵子。

### ◎平成17年度徳島県秀作巡回美術展（徳島県文化国際課）

10月13日～19日・日和佐町コミュニティホール、10月24日～28日・阿波市御所小学校、11月10日～17日・由岐町ぼっぼマリンドで開催されデザイン部会から○坂本三千一、沢口功、四十宮隆志、吉本實が出品した。

### ◎第60回記念徳島県美術展（第1期 11月12日(土)～20日(日) 郷文）

審査員は東京から大先輩の大先生で本展35回展に来徳・二度目、25年ぶりの再会になる永井一正先生にお願いできた。日本グラフィックデザイナー協会の初代会長は、故亀倉雄策（40回県展審査員）で、二代目会長を永井先生がつとめていたが、体調の具合などで退き、海外や国内の審査会には極力辞退しているという中、徳島からのご指名をなぜか断われなかったと、嬉しいお言葉を頂いた。

応募数129点・97人。○記念大賞（特別賞）1点・「命のアカシ～Summer Singing～」四十宮隆志。○特選1点・「カンボジアにてⅢ」西山稔江。○準特選4点・大盛知佳、「個展ポスターⅡ」生田典子、斎藤剛、岩佐大祐。○奨励賞4点・斎藤志津子、相原由貴、梶浦千瑞、稲垣友香。○入選37点（受賞含む入選率・36.4%）。

会員からは、記念大賞（特別賞）に四十宮隆志。準特選・生田典子。入選・

「PRECIOUS NATURE」西林良枝、「私の頭の中のワタシ」稲実宏美、「造反者～stand up～」四十宮隆志（大賞と入選と）。また、[特別出品] 坂本三千一、[招待出品] 斎藤繁次、坂野美恵子、[無鑑査出品] 敷島のり子、[賛助出品] 福井章。

### ◎徳島県民文化祭協賛・デザイン部会記念展

県展・デザイン35年（11月16日～20日）四国大学交流プラザ3F

県展に、デザイン部門が加わって、35年になり「県展・デザイン35年」デザイン部会記念展を、60回記念県展の会期中に合わせて開くことにした。

考えてみると、26回展に商業美術部門（38回展よりデザイン部門に改称）で審査を受けたのが、徳島公園の小便小僧が立っている西側にあった、県立図書館（憲法記念館）であった。デザイン出品者は若い人達が多いが、生まれていない遠い昔の話しかも知れない。

現在会員で残っているのは、沢口、福井、坂本の3名だけになっている。35年も経つとカバーのセロハン・ビニールなどはケント紙に溶けて剥がれなくなったり、絵具のポスターカラーはパラパラと落ちてしまう有様である。会場の関係もあり点数を制限、自薦による26回展から59回展までの作品38点を揃えることができた。歴代の審査員の作品8点も加えることができた。徳島新聞企画事業局長さんから生花と祝辞を頂き、徳島県美術家協会会長と事務局からも祝辞を頂戴し華を添えてくれ盛会のうちに終了した。

### 会員消息

（県展・放美展関係は除く。順不同）

#### ■沢口 功

- 2月 第33回徳島市芸術祭美術展：審査員出品（県郷土文化会館）
- 10月 平成17年度徳島県秀作巡回美術展出品（県内巡回）
- 11月 県美術家協会デザイン部会記念展「県展デザイン35年」出品（四国大学交流プラザ）
- 12月 第34回歳末チャリティ作品・色紙即売展出品（徳島そごう）

#### ■吉本 實

- 10月 第17回徳島デザインドリーム展出品（徳島市立木工会館）  
平成17年度徳島県秀作巡回美術展出品（県内巡回）
- 11月 県美術家協会デザイン部会記念展「県展デザイン35年」出品（四国大学交流プラザ）
- 12月 第34回歳末チャリティ作品・色紙即売展出品（徳島そごう）

## ■福井 章

- ・徳島新聞朝刊「阿波路イラストふらり旅」絵と小文（毎月1回連載中）
- ・徳島新聞論田専売所「TOWN NEWSおおみこ」わが町スケッチ（毎月1回連載中）
- ・とくしま“あい”ランド推進協議会情報誌「いのち輝く」イラストシリーズ（年3回連載中）
- ・徳島調停協会連合会「会報 和と情理」イラスト（年2回連載中）
- ・'06徳島新聞正月号「親と子の公園ストーリー」イラスト42点制作
- ・第22回国民文化祭徳島県実行委員会美術展企画委員会委員就任

## ■四十宮隆志

- 3月～4月 東京国際アニメフェア2005（東京ビックサイト）・シンポジウム&表彰イベント参加、作家交流
- 10月 第17回徳島デザインドリーム展出品（徳島市立木工会館）  
第11回アニメーション神戸（神戸国際会館）・シンポジウム&表彰イベント参加、作家交流  
平成17年度徳島県秀作巡回美術展出品（県内巡回）  
第36回アニメーション全国総会（淡路島岩屋温泉淡海荘）・上映会参加、作家交流
- 11月 県美術家協会デザイン部会記念展「県展デザイン35年」出品（四国大学交流プラザ）  
中四国9県美術展秀作展（島根県立石見美術館）・グラフィックデザイン1点出品
- 12月 第34回歳末チャリティ作品・色紙即売展出品（徳島そごう）

## ■坂野美恵子

- 4月 大韓産業美術家協会創立60周年記念「韓・日現代ポスター展」出品（韓国ソウル国際デザインプラザ）
- 5月 三好市「市章」選考委員就任
- 9月 第90回二科展デザイン部門：会員出品（東京都美術館）
- 11月 県美術家協会デザイン部会記念展「県展デザイン35年」出品（四国大学交流プラザ）

## ■生田 典子

- 9月 第90回二科展デザイン部門出品：準入選（東京都美術館）



11月 県美術家協会デザイン部門記念展「県展デザイン35年」出品（四国大学交流プラザ）

■稲実 宏美

9月 第90回二科展デザイン部門出品：準入選（東京都美術館）

11月 県美術家協会デザイン部会記念展「県展デザイン35年」出品（四国大学交流プラザ）

■坂本三千一

1月 第2回徳島県立近代美術館 特別企画展ポスター、チラシ等デザイナー選定審査会委員（徳島県立近代美術館）

3月～ 第22回国民文化祭徳島県実行委員会企画委員会委員（徳島県県民環境部国民文化祭課）

5月 三好市「市章」選考委員会委員長就任

6月 徳島県表彰（知事表彰）授与  
徳島県平和ポスター選考会委員長（徳島県企画総務部総務課）

10月 平成17年度徳島県秀作巡回美術展出品（県内巡回）  
第20回国民文化祭ふくい視察参加（徳島県県民環境部国民文化祭課）  
あいずみ文化祭ポスター：B3版デザイン制作（藍住町文化協会・藍住町教育委員会）

11月 あいずみ文化祭：デザイン作品出品（藍住コミュニティセンター）  
県美術家協会デザイン部会記念展「県展デザイン35年」出品（四国大学交流プラザ）

# 県展60回記念展を迎えて

昭和21年にはじめられた県展も2005年（平成17年）には60回を迎えることができた。充実と発展の歴史刻み続け、還暦迎えた県美術展として、平成17年11月16日に徳島新聞に掲載された中から、“県展60年の歩み”と、県美術家協会の7部会の部会長さんの苦労にかかわる記事と来県された審査員の各部門の総評を掲載することとします。

## 県展60年の主な歩み

- 1946年（1回）11月23日から4日間、丸新百貨店で開催。部門は日本画、洋画、写真の3つで、156点を展示。5万人以上の観客が訪れ、会期をさらに2日間延長した。主催は徳島新聞社。
- 47年（2回）彫刻、美術工芸、書道の3部門が加わり、計6部門に。第1会場（丸新百貨店）と第2会場（徳島デパート）に分けて展示。審査員は彫刻を除き、県外から招く。
- 48年（3回）県美術家協会が結成され、徳島新聞社との共催となる。
- 49年（4回）会期を3期に分け、2部門ずつ作品を展示。
- 53年（8回）憲法記念館が会場となる（58年の13回展まで）。
- 55年（10回）応募点数が初めて1,000点を超え、1,138点に。
- 56年（11回）特別出品、招待出品、無鑑査出品を制度化する。
- 57年（12回）書道の審査員が県人の複数制となり、部門も漢字、仮名、近代詩文、前衛の4つに。
- 59年（14回）会場が徳島市民会館（64年に徳島市体育館と改称）となる（70年まで）。6部門の入賞・入選点数は500点を超す。
- 67年（22回）第1回県芸術祭特別参加として開催。
- 69年（24回）第1会場（徳島市体育館）と第2会場（千秋閣）に分けて展示。
- 70年（25回）この年から県芸術祭主催行事として開催。
- 71年（26回）商業美術部門（38回展から名称をデザインに変更）が加わり、現在の7部門に。会場はこの年オープンした県郷土文化会館。
- 82年（37回）応募点数が2,000点を突破、2,063点に。この年から会期を2期とし、書道と他の6部門を分けて展示。
- 86年（41回）県展運営開催要項を制定。全部門が県外審査員となる。
- 92年（47回）7部門の入賞・入選点数が1,000点を超え、書道の入選作品を前期・後期に分けて展示。
- 94年（49回）応募点数が3,000点を超し、3,022点に。
- 95年（50回）半世紀を迎え、記念展を開催。
- 2000年（55回）全部門の奨励賞以上の入選者の中から最年長にミレニアム賞を贈る。
- 01年（56回）各部門で奨励賞以上の入選者の中から最年少者に新世紀賞を贈る。
- 02年（57回）書道部門に篆刻が新たに加えられる。
- 05年（60回）“還暦”を迎え、記念展として第1回こども県展も開催。

## 日本画部会長 西野和男

県展の特徴の一つに公開審査があり、日本画の有力団体である日展、創画会、日本美術院から審査員を迎えています。これほど厳正に審査をしている地方展は少ないと思います。過去には、上村松篁、山口華揚、秋野不矩、下保昭といったそうそうたる人たちが務めていて、そうした審査員の講評・批評を聞き、“日本画とは何ぞや”という話に触れるのは非常に勉強になります。

私自身、24歳のとき初めて特選を取り、35歳で招待になりましたが、その11年間は青春というか、激戦の日々でした。「西野さんは必ず審査会場に来て、思い詰めたように、じっと見ていた」と言われます。審査は不安もありましたが、楽しみでした。審査員それぞれの考えがあるので、たとえ落ちてでも恥ずかしがらずに、批評を受けてほしい。大事なことです。

日本画は画題を求めて、自然の写生やスケッチをしますから、あまり知らなかった徳島のことをよく知るきっかけにもなるんです。風土に目を向け、その上で“自分はこれを描きたいんや”ということを考え、ありのままの自分を表現していけばいい。それが中央展とは違った、地方展の良さの一つだと思います。

部会長として取り組みたいのは底辺の拡大です。ずっと70点前後の応募で推移してきて、今年は60点とやや少なかったのですが、若手はもちろん、幅広い年齢の人に日本画の世界に慣れ親しんでほしいですね。

## 洋画部会長 榎田 務

洋画部門は、第1回展から県外の著名な作家を審査員に迎え、公開審査を続けてきました。毎年のように作風の異なる多彩な審査員の評価を得られたことは大きな財産であり、県展の創設にかかわった方々のこのような先進的な取り組みが、洋画部門はもとより県内洋画界の発展に大きく寄与したのだということを、あらためて感じています。

県展への初めての出品は第7回展、高校3年生のときで入選をいただきました。ベテランの河野太郎さんや永山隆二さん、佐野比呂志さんらが活躍していた時代です。先輩方の作品に大いに刺激され、創作に励んだものでした。

県展の運営に携わるようになってはや36年。展示スペースの関係もあって入選率は3割強と今も“狭き門”ですが、審査員の言葉を借りるまでもなく、作品のレベルが確実に上がっているのを感じます。近年では女性や若者の出品が増え、入賞するなどの活躍が見られます。望ましい傾向とはいえ、まだまだ若者は少数派。高校生の皆さんの挑戦を期待しています。

時代とともに応募作の傾向も多様化し、新しい素材を用いるなど今の洋画部門に納まり

切らない作品も見かけるようになりました。そうした作品にどのような対応していけばいいのか。部門の歴史と伝統を受け継ぎながら、さらに発展させていく中で、考えなければならない課題だと思っています。

#### 写真部会長 櫛 淵 魏

出品数が少なかった初期のころから写真部門の熱気はすごかった。県内のあちこちでカメラクラブが結成され、火花を散らして腕を磨き合いました。今でも審査会場は、当時の雰囲気そのまま引き継がれています。

県展では数々の著名な写真家が審査しましたが、棚橋紫水さん（第26回展まで計10回の審査）と、岩宮武二さん（第42回展まで計19回）の思い出が強烈です。今の招待や無鑑査のほとんどがこの2人に育てられたようなもの。2人とも非常に厳しく温かく、情熱的でした。先生の泊まっている旅館に皆で押しかけ、深夜まで車座になって写真論を戦わせたことが懐かしく思い出されます。

三好和義君の衝撃的なデビューも忘れられません。中学のころから実力と熱心さは広く知られていましたが、彼自身が「県展に育てられた」と言ってくれているのは非常にうれしい。

現在、女性の出品数は増えていますが、他部門に比べて入賞者が少ないように感じます。今年は記念大賞をはじめ4人の女性が入賞しました。この調子で来年以降も女性の活躍を期待しています。

また、デジタル写真の普及とともに写真表現は多様化していますが、その出品は1割程度で、どれも「デジタルでなければ撮れない」というものではありません。新たな可能性を切り開くような1枚が見たいですね。

#### 彫刻部会長 松 永 勉

私が県展に初入選したのは第25回、坂東文夫先生の下で学んでいた徳島大学4年生のときです。県で1番の展覧会に自分の作品が選ばれ、素晴らしい作家たちの作品と同じ部屋で並べられる…本当に感動したのを覚えています。

15年かかりましたが、第40回展の特別賞受賞で念願の招待作家になることができました。その年には初めて表彰式後の受賞パーティーも開催され、晴れがましい気分でした。

県展のいいところは、国内の第一線で活躍している審査員からアドバイスや刺激を受けられることです。人のつながりもできますし、多くの知り合いが展示を見に来てくれることは励みになります。

しかし、約10年前は50点近くあった出品数も、現在は半減しています。費用や制作場所の問題、また現在は県展以外にもグループ展などで発表の機会があることも大きいでしょう。

インスタレーションやメディアアートなどを取り込んだ、若者を中心に多様化している彫刻に対応できていないことも問題です。多くの人に出品してもらえよう、新しい方向への展開が必要かもしれません。

さまざまな事情から出品をやめてしまう実力のある入選者を多く見てきました。しかし、彫刻の面白さや楽しさを本当に味わうためには、作り続けることが大事です。徳島の作家たちには、県展をベースに力を発揮してほしいと思います。

美術工芸部会長 山 上 馨

美術工芸部門は第2回展から始まり、そのときは出品数32点・入選19点でした。初期の入選は、金工や木工などの特殊技能を持った大学教授や専門家がほとんどで、一般には遠い存在だったようです。

1960年代前半から大谷焼の陶芸家たちが次々に受賞し、伝統工芸としての地位を確固たるものにしました。現在は彼らの指導を受けた愛好者が増え、陶芸は出品数の5—6割を占めるほどになりました。

70年代前半には染織、<sup>もくげい</sup>空芸といった新しいジャンルも登場しました。その後、大谷焼と同じく伝統産業を背景にした藍染作品の受賞が相次ぎました。

私が部会長に就任した93年以降も、ジャンルは広がっています。特にパッチワークキルトやガラスが躍進しています。その要因として、前者は盛んなグループ活動、後者は制作拠点である徳島ガラススタジオの開館があります。

そのパッチワークキルトを「手芸」として受け付けられない地方展もあります。どんな素材でも、人間がかかわって造形活動していればいい、というのが県展の考え方です。

カルチャーセンターで学ぶ愛好者も増え、今回の出品は227点、うち入選は136点にのびました。一方、金工や木工など初心者には取り組みにくい作品が減少しています。公開審査で行われる県展は、格好の勉強の場。大いに参加し、表現の幅を広げ、深めてほしいと思います。

書道部会長 上 田 溪 水

県展との付き合いは、50年以上になります。県展は一番の目標で、初入選したときの感動は、後の日展入選より大きかったですね。その後、第36回展で招待作家になるまでは本

当に長い道のりでした。あきらめかけていたころでしたので、喜びもひとしおでした。

運営面では第41回展に大幅な改革がありました。他部門から遅れていた公開審査と県外審査員の導入です。毎年異なる書家により審査が行われるため、選ばれる作品の傾向も変わります。このことは、出品者の励みになっているようです。

3年前からは、漢字部門に篆刻<sup>てんこく</sup>を導入しました。出品数は伸び悩んでいますが、高校生が増えてきているので、今後が楽しみです。

同じく前衛にも、高校生の出品が目立ちますが、奇をてらうものではいけません。古典をよく学んだ上で、線の美しさを追求してほしいと思います。

古典の臨書を中心にした地道な勉強が書の本流。私は、小坂奇石先生の下でずっと基礎をたたき込まれたこともあり、特にそのように思います。私たちも、若者に書道の楽しさを知ってもらえるよう努力しなければいけませんね。

県立文学書道館が設立され、書の勉強がとて進めやすくなりました。昔から「書は人なり」と言われるように、作品からは作者も人間性が伝わってくるものです。独創的で、人に感動を与えるような出品作を期待しています。

#### デザイン部会長 坂本 三千一

洋画家の平沢いさむ先生らの働き掛けや、県内のデザイナー集団「ADG（徳島アートデザイナーズグループ）」の尽力で、デザイン部門（当初は商業美術部門）は第26回展から県展に加わりました。

第1回の金野弘さんからはじまり、原弘さんや大高猛さん、亀倉雄策さんら審査員はそうそうたるメンバーを呼んできたと自負しています。県文化の森シンボルマークの審査委員長を務めた田中一光さんのように、審査後もさまざまな形で交流が続いた方も多くいます。まだ県出身のデザイナーを招いたことがないので、実現させたいと思っています。

デザインは他部門に比べて高校・大学生らの出品が多く、若い力が目立つ部門。しかし卒業すると出品が途絶えてしまいます。他部門に比べて無鑑査作家が少ないのもそのせいではないでしょうか。

また、プロが多い割に、彼らの出品が少ないのも残念です。本業ということで入賞へのプレッシャーは強いと思いますが、たとえ落選したとしてもそれを乗り越える気概を持ってほしいと思います。

社会的なニーズの高まりとともに生まれたデザインは、経済活動と密接に結びついているため社会の流れと無関係ではられません。今後も柔軟な姿勢を忘れずに、運営方法なども含めて時代に即した在り方を考えていかなければいけませんね。

# 60回展審査評

## [日本画]

審査員 小嶋悠司  
(京都市芸術大教授)

公募展の審査をしていると、前年に賞を取った作品のまねをしたり、東京で流行(はや)っている抽象的な絵を出品してきたりするが、私は、そんな作品は求めている。今回の審査では「頭で考えた絵」「技術に走った絵」は選外とした。

絵は、考えてやるものじゃないからだ。自然との対話からにじみ出てくるものや、スケッチから受けた感情を大切にしてほしい。

その点で、県教育長賞の石原千鶴「サンシャイン」は、気張るとか、しんどいとか、そういう気持ちはなくて、ゆったりとおおらかに描けている。作者の中には、このバナナの木を取り上げる必然性があったのだろう、それが感じられる。アトリエで考えて描くと、例えば真ん中の花の赤をきつく塗るのだが、これはそういう風にはつくっていない。光がパーンと当たった印象をそのまま表現していて、よかった。

特選の森崎雅子「道」も、この人が感じた印象そのものを描いている。白い花をつけたヒメジョオンを描いているが、実際にこういう風景があるというのではなく、こんな感じだったという印象。一面に咲くヒメジョオンを描きたい、そんな作者の気持ちを表した、いい作品だった。

素材やモチーフにしても、地域に伝わるもの、身の回りの自然に即したものに目を向けるのはいいこと。“現代だから現代的な絵を”と目指しても、そう簡単にいくものではない。それと、岩絵の具やニカワの使い方はもちろん、技術は一生の鍛錬が必要だ。そのうえで、自然の中から受ける、新鮮な感動があればいいのではないだろうか。

## [洋画]

審査員 絹谷幸二  
(日本芸術院会員)

絵画が人の心を映す鏡とすれば、人間としての豊穡(ほうじょう)な精神をまず鍛えなければならぬ。大多数の作品は、過去に学び、進取の気性に富み、時代を見事なまでにとらえ、人生を謳歌(おうか)する姿を写し出していた。全体的なレベルも高く、写実、具象、抽象を問わず、絵画がそれぞれの詩を歌っていて、審査する私を楽しみ気持ちにさせてくれた。

徳島市長賞の松尾実「夢」は、現代人の持つ不安と焦燥を画面に塗り込めて新境地を描き出した。空間に対する二重写しの線描画で、空間の揺らぎと大地の歩みをとらえてすがすがしい。二つ折りの画面と、それを切るように配置した背景の効果が素晴らしい。赤い扉、地の重力と上方に開かれた天空を飛翔（ひしょう）する鳥たち…。生きるものと大地と空間のとらえ方が、人体にも生かされている。「生きるとは何か」「死ぬとは何か」という問い掛けを、私たちに投げ掛けてくれる作品だ。

特選の西條明彦「風化」は、静ひつな画面にもかかわらず、人間の犯した罪の慟哭（どうこく）が、画面から聞こえてくるようだ。的確な技術が光と影を見事に表現した。破壊されてもおお大地には、わずかな間隙（かんげき）から生命の息吹が芽生え、平和を願う気持ちが折り鶴として描き出されている。

特選の天羽千絵「片隅の孤独」は、巨大な肉の塊をどきりとするような迫力で描いている。人間が豊穡の海でごう慢に生きている姿への孤独感か、画面いっぱいに広がる油彩画のマチエールが、作者の意図を物語って力強い。背後の直線的な空間と有機的な人体の曲線が画面に安定感を与えている。

## [写 真]

審査員 江 成 常 夫  
(九州産業大大学院教授)

写真は時代や自身の心を写す鏡。デジタルの時代になって表層的な技術に頼りがちだが、いくら複雑な作品でも、心がなければ意味がない。審査でも方法論や技巧ではなく、進行する「今」を的確に切り取り、撮影者の心の中が見えるような批評性や物語性に富んだ作品を選んだ。

徳島新聞社長賞の矢部弘子「史実に母校名有・只・合掌」（3枚組）は、戦後60年にふさわしい時宜を得た大作。60年前に焦熱地獄と化したヒロシマのイメージをストレートな視線で強調していて、過ぎ去った記憶を呼び戻し未来に語り継ぐという写真の特性を存分に生かしている。

特選・西野倫子「不透明な記憶」（3枚組）は、現代社会の不透明さや、不安を抱えた心といった抽象的なテーマを高度な技術と感性で具象化している。

特選・久保英樹「北天への願い」は、光線による視覚的な面白さだけでなく、タイトルも素晴らしい。作者の深い心の奥が託されているように感じる。

特選・国見良幸「語らい」は、真っすぐな視線で2人の心のつながりをとらえた。大きなテーマではないが、見ていて豊かな気持ちになる。まさに写真の原点ともいえる作品。



2年ぶりに県展を審査した。被写体に寄りかかった作品が多かった一昨年に比べ、今回は時代と社会にレンズを向け、対象を通してメッセージを発するような作品が多く見られた。また、記録的な側面をもつ“正統派”が多いように感じた。

写真は記録からアートまで幅広い世界を作り出す力を持つ。失敗を恐れずに実験的な試みや冒険をすることで、表現の幅を広げて新しい世界を構築してほしい。

## [彫 刻]

審 査 員 北 郷 悟  
(東京芸術大助教授)

出品数は少なかったものの、丸太やプラスチックなどバリエーションに富んだ素材を使用したユニークな作品が目立った。視野を広く持ち、新しいことにチャレンジしている人が多いように思う。

四国放送社長賞の武田亜希子「未来観測」は、テーマ性が強く、作者の豊かな感性がよく現れている。美しいフォルムから宇宙全体をイメージすることもできるし、地球そのものの姿も伝わってくる。技術的にもすばらしい。ただ、正面から見たときと、後ろから見たときとの関係性を保つためには、台座は四角より円のほうがよかっただろう。

準特選の安藝淳二「森を運ぶ船」は、木の角柱21本を、等間隔で船の形に並べた美しい作品。船の中央部の角柱の上には、削り出された柔らかな形の「木々」が並び、森を連想させる。角柱の規則正しい配列に、時間の流れがうまく表現されている。

同じく準特選の津越真由美「ひまわり」は裸婦像で、腰掛けたフォルムのバランスが非常に良い。内面から人間像をとらえたもので、作者の素直な表現力に今後の可能性を感じる。台に乗せて作品の目線を上げれば、下の空間も取り込めてよりよく仕上がったと思う。

技術的に十分できあがっている人も多く、今後はより実験的な仕事を期待したい。また選には漏れたが、石こうの人物像という大作に挑戦した高校生たちも高く評価したい。人間の形をもっと細かい点まで観察すること、そして製作中に欠けた部分は修復するなど、ギャラリーを意識した丁寧な仕事を心がけると、より完成度の高い作品ができるだろう。

## [美術工芸]

審 査 員 宮 田 亮 平  
(東京芸術大副学長)

7年ぶり2度目の審査だが、すごくレベルが高く、60回の歴史を感じた。甲乙つけ難く、

最後に賞を決めるときは、自分が賞をもらったときのような鼓動の高まりすら覚えた。

審査は作品に個性がきちっとあるか、自分の表現したいものが作品のコンセプトにあるか、をポイントにした。また、美術工芸は素材の強さに個性が負けることがあるが、素材を生かして表現できているか、という点も見た。

県美術家協会会長賞の藤井哲信「祭器」（ガラス工芸）は、日本的な雅（みやび）の世界とギリシア、古代ローマの世界の造形美がうまく合致している。空間を上手に生かしているのも面白く、いわゆる現代的な感じを出している。さらに我流でなく、作家の気持ちが見る人にも、使う人にも分かる。置くだけでも、花を生けても生きてくる。そんな美術工芸ならではの素晴らしさがある。

特選の大貝寿子「無月」（陶芸）は表にある円が、左右、裏と同じように描かれている。「黒い太陽」を思わせ、透明感と力強さを感じる。土の持つやわらかさと、焼きしめることによって出る硬さとのコンビネーションも大変よくできている。陶芸しかできない味わいのある作品だ。

ジャンルが多岐にわたり、地場産業である陶芸がしっかりしている。パッチワークキルトなど布を使った作品も頑張っている。さらにレベルの高いガラス工芸も印象に残った。ただ、金工や漆の作品が少ないのが残念だった。奮起を期待したい。

美術の作品は「マル」か「バツ」でなく、すべてが「マル」だ。ただ、作家の思いがどれだけ伝えられているか、その量の問題と思う。

## [書 道]

### ●漢字・篆刻

審査員 伊藤天游  
(日展会員)

書を愛する人たちが本当に楽しんで書いている雰囲気、どの作品からもよく出ていた。技術的にも非常に高く、古典を大切にしていることが分かる。先人が勉強した後を追体験しながら自分の中に積み重ね、作品に生かしていくことが重要。審査も古典をどのように学んだかを基準とした。

記念大賞（県知事賞）の林みゆき「劉崧の詩」は、太めの線で行を通しながら、うまく流れている。作品に一貫した墨の流れを出して、墨と余白の美しさを最高度に引き出している点で、特に優れている。原型は王鐸だろうか、明・清の書風をかなり学んだ上で、自分なりのものを作り出した。奇をてらうことのない、正調な書だ。

特選の由字典代「白居易の詩」も行の流れ、線の流れが際立って美しい。字形の形と筆の墨の運びが行間を美しくして、全体の鮮やかさを引き立てた。羊毛の柔らかい筆を使ったやや細めの線を、黒潤の変化によってうまく生かした。

同じく特選の美馬潤子「杜牧の詩」は、横長の料紙にタンタンとリズムよく置いていき、最後の小さく書いた四行の落款まで、うまくまとめた。墨の塊と余白をバアーと出したりするあたり、憎いほどの書きぶりだ。

篆刻部門では優秀な5、6点は、厳しく勉強した篆刻家の作品。高校生も多かったが、そのころからコツコツと古代の中国の文字を学ぶことで、文字の形といった「書の原点」が理解できる。大家の個展を見たり、古碑の印影を眺めて刻意を自分のものとし、彫る技術を磨いてほしい。

漢字も篆刻も「無」からは何も生まれない。文字の良さは古典にある。そこから一つの作品の輪郭を持ち、そして徹底的にぶつかって、最後に出来上がったときの喜びを感じてほしいと思う。

## ●仮名

審査員 井 茂 圭 洞  
(一東書道会会長)

文字の造形の美しさより、いかに伸びやかに線を書いているかを主眼に審査した。入落の境界線上で紙一重の差で落選した人もたくさんいた。

大字、中字、小字を使った作品がバランスよく出品されていて、全体的なレベルの高さを感じた。仮名の美しさは、なんといっても流麗さであり、それにのっとった作品が目立った。

特選の宮西恵子「後徳大寺左大臣の歌【ほととぎす…】」は、筆の先がよく効いていて、線に深みがある作品。自由な運筆で行に貫通力があり、仮名の流麗美がいかに発揮されている。十分に紙に墨を吸収させた技法で、字間や行間の白が美しく際立っており、線で囲まれた空間が明るく輝いて見える。書は、文字の書かれていない余白がいかに美しく見えるかが重要だ。そんな空間美を感じる秀作だった。

特選の詫間勝子「読み人知らずほか九首【春がすみ…】」は、小字の流れが美しい。線の太さに変化をつけてコントラストを表現し、立体的に見えるように工夫した点が素晴らしい。紙の濃淡を巧みに利用して、さらにその効果を上げた。線の錬度も高く、緊張感が伝わってくる。また、文字の大小をうまく組み合わせることによって作品に動きを表現し、りゅうちょう流暢さを引き立たせた。

古筆（古典）を勉強すると書の幅が広がり、書く喜びがわいてくる。自分に合う書風を学び、個性豊かな作家に育ってほしい。

## ●近代詩文

審査員 田岡正堂  
(創玄書道会常務理事)

徳島県展の審査は初めて。他県と比べてレベルは普通だが粒ぞろい。入選と落選の差はほとんどなく、壁画の都合でやむなく落選を出した。

審査は墨量の変化、太細の変化、大小の変化、線の美しさ、白と黒とのコントラスト、リズムといったものをポイントにした。

特選の岩本雅三「高浜虚子の句『紫蘇の實を…』」は、全体のまとめ方が実に巧妙。大、中、小の変化があり、さらに墨量の変化もあって、線の躍動感が抜群だ。また自分の体と筆の呼吸がマッチし、全体に生命力があふれる作品になっている。

特選の岸緑「田中冬二の詩『蕎麦湯…』」は、全体の中にやや画数の多い字がいたるところにあるため、ややもするとうるさくなるものだが、技量によってそう見えない。そして白と黒のコントラストが実にうまい。筆の開閉も自由で、他を圧している。

いい作品は中央展で入選するレベルにあった。一方で、初心者と思われるが、書き込みが足りない作品も一部見られた。

アドバイスとすれば、手本をもらわないで、自分で創作できるような実力を養ってほしい。そして形よりも、線から覚えてほしい。大きく構え、できるだけ高いところから筆を出し、遠くに投げ出すようにして書くことで、自然に力がついてくるだろう。

## ●前 衛

白と黒のコントラストをポイントに、健康的で<sup>きつそう</sup>颯爽とした作品を選んだ。

特選の林浩一「風」は筆の躍動感があり、潤筆と渴筆の表現が鮮やか。風が舞っているような、豊かな作品になっている。また、<sup>ひまつ</sup>飛沫が何ともいえない雰囲気醸し出している。

準特選の中川富量「宙」は太い線、細い線、強弱がある。筆のうねりがよく紙面をとらえ、穂先が活躍している。また、筆の表裏をうまく使っているのは、初心者にはできない高度な技量だ。

特選と準特選の2点は、ほかの作品にはない狙いが感じられた。一発勝負では書けないもので、それなりの蓄積があるからだろう。

自分の表現を思い切ってぶつけられるのが前衛。しかし、出品数が少ないのは残念だった。高校生が多かったようだが、中堅が育っていないと思った。中堅の奮起を期待している。

## [デザイン]

審査員 永井 一正  
(日本グラフィックデザイナー協会理事)

デザインはビジュアルコミュニケーション。伝えたいメッセージを的確な手法で表現しなければ意味がない。とはいえ、使い古されたスタイルを用いたのでは説得力に欠ける。斬新（ざんしん）な手法で他者を引き付けることが重要だ。入賞作は、メッセージ性が強く「現代」をオリジナルな視点からとらえたものを選んだ。

県議会議長賞の四十宮隆志「命のアカシ～Summer Singing～」は、セミの抜け殻を粗い写真で取り入れ、中央に「それはただひたすら歌い続けること」という文字を入れた。セミは一生のほとんどを土の中で過ごす。地上での時間はほんのわずかだが、そこに命の輝く瞬間がある。生き物にはそれぞれ寿命があるけれども、一瞬一瞬を大切に精いっぱい生きようという作者の強いメッセージが伝わってきた。

特選の西山稔江「カンボジアにてⅢ」は、地雷の悲惨さをコラージュ写真で表現したものの。高いデザイン性をもちながらも子供の表情から地雷の恐怖がリアリティーを持って迫ってくる。

県展の審査は25年ぶり2度目だが、前回に比べて高校生を含めた若者の出品が多く驚いた。やはり若い世代が関心を持ち、向上心を持って次につなげていけば徳島全体のレベルの底上げになる。そういった期待も込めて、入選作は未完成でもエネルギーにあふれた意欲的なものを選んだ。

ただ、漫画の影響を強く受けた作品が多いのが気になった。漫画は一つの確立されたスタイルだが、それだけでは個性が出にくい。そこから吸収した世界観なり手法なりを生かしつつ、オリジナリティーをどう出していくかを考えてほしい。

平成17年度 第9回徳島県民文化祭

第60回記念徳島県美術展（県展）公募規定

区分	部門	日本画	洋画	写真	彫刻	美術工芸	書道	デザイン
搬入日		10月16日	10月15日	10月23日	10月16日	10月16日	10月22日	10月16日
搬入先		徳島県郷土文化会館						
審査日		10月16日	10月16日	10月23日	10月16日	10月16日	10月23日	10月16日
審査員		小嶋悠司	絹谷幸二	江成常夫	北郷悟	宮田亮平	伊藤天游 井田茂圭 田岡正堂	永井一正
出品料		協会員 1点目 3,500円		その他の方 4,500円		2点目からはすべて 1,500円		
出品制限・大きさ・仕上げ		<ul style="list-style-type: none"> <li>未公開作品に限る</li> <li>点数は制限なし</li> <li>小・中学校在学者は出品できない</li> <li>72.7cm×50.0cm(額縁を除いて)以上でタテ、ヨコ190cm(額縁を含む)以内(ガラス・アクリル不可)</li> <li>吊り紐</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>20号以上(水彩は20号以上、版画は10号以上とする)</li> <li>額</li> <li>吊り紐</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>組・単写真とも画面サイズ、半切以上(カラーは印刷に限る)全倍まで</li> <li>無鑑査以上は画面サイズ半切以上、全倍までで単写真に限る</li> <li>パネル張り(組写真は1パネル(90×180cm以内)に全作品をレイアウトしたもの又は全作品を固定したもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>高さ2m×幅1.5m×奥行1.5m重量200kg以内</li> <li>材料は自由、展示可能なものに限る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>大きさ制限なし(ただし、平面作品はタテ1.8×ヨコ1.5m以内)</li> <li>木・竹・金工・陶磁・漆・染糸・織物・人形・ガラス等</li> <li>展示できる用具をつける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>半切又は全紙横1/2以上、仕上がり面積が1.47㎡(16平方尺)以内、縦・横自由</li> <li>卷子本・帖(40×300cm以内)</li> <li>篆刻は印影(タテ39cm×ヨコ30cm以内)で額装に限る(例) 61cm(2尺)×242cm(8尺)枠張 79cm(2.6尺)×181cm(6尺)枠張 91cm(3尺)×161cm(5.3尺)枠張 121cm(4尺)×121cm(4尺)枠張</li> <li>半切・全紙1/2・聯落まで額装アクリル入りでもよい</li> <li>無鑑査以上は半切以内</li> <li>部門は漢字(篆刻)・仮名・近代詩文・前衛とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>B1パネル横728×縦1,030ミリ</li> <li>厚さ5~75ミリ程度</li> <li>重さ5kg以内</li> <li>課題は自由(実在の商品名・会社名等は除く)</li> <li>法的規制に触れないこと</li> <li>吊り紐</li> </ul>
入賞		<ul style="list-style-type: none"> <li>認選 1点</li> <li>特別選 1点</li> <li>特選 3点</li> <li>準特選 3点</li> <li>奨励賞 3点</li> <li>入選 規定数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認選 2点</li> <li>特別選 2点</li> <li>特選 6点</li> <li>準特選 6点</li> <li>奨励賞 6点</li> <li>入選 規定数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認選 3点</li> <li>特別選 3点</li> <li>特選 9点</li> <li>準特選 9点</li> <li>奨励賞 9点</li> <li>入選 規定数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認選 0点</li> <li>特別選 1点</li> <li>特選 2点</li> <li>準特選 2点</li> <li>奨励賞 2点</li> <li>入選 規定数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認選 1点</li> <li>特別選 1点</li> <li>特選 4点</li> <li>準特選 4点</li> <li>奨励賞 4点</li> <li>入選 規定数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認選 1点</li> <li>特別選 7点</li> <li>特選 14点</li> <li>準特選 14点</li> <li>奨励賞 14点</li> <li>入選 規定数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認選 1点</li> <li>特別選 1点</li> <li>特選 4点</li> <li>準特選 4点</li> <li>奨励賞 4点</li> <li>入選 規定数</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>落選作品は審査終了後、各部門で決められた日時までに搬出すること。</li> <li>展示作品は一期は11月20日(日)、二期は11月29日(火)の午後5時から午後6時までに搬出すること。</li> <li>所定の期日までに搬出しない場合は主催者において処分する。</li> </ul>						

第 60 回 記 念 県 美 術 展

特 別 ・ 招 待 ・ 無 鑑 査 ・ 賛 助 出 品 者 名

☆ 日 本 画

(特別出品)	長 尾 弘 子		
(招 待)	橋 本 正 弘	中 川 健	岡 英 彦
	土 方 るみ子	西 野 和 男	土 井 洋 子
(賛助出品)	長 谷 寿		

☆ 洋 画

(特別出品)	佐 野 比呂志	永 山 隆 二	榊 田 務
(招 待)	清 水 巫 悞	楠 瀬 等	露 口 敏 幸
	長 尾 弘 久		
(賛助出品)	岡 多美子	柏 木 雅 雄	河 田 安 市
	黒 崎 志 郎	後藤田 仁 一	松 川 寛
	岡 田 守	中 辻 奈美枝	

☆ 写 真

(招 待)	増 田 清 次	井 上 光 雄	木 田 英 之
	西 條 征 二	勝 西 雅 夫	藤 井 梵
	武 内 亨	笹 田 敏 雄	柳 沢 魏
	三 好 和 義	上 野 照 文	森 賢 一
	橋 本 圭 祐	安 長 剛 彦	前 浦 芳 久
	荒 井 賢 治	林 敏 彦	多 田 晴 美
	古 井 謙 吉	中 野 建 吉	井 藤 光 章
	増 田 壽	柳 本 正 男	大 藤 健 司
(無 鑑 査)	船 越 正 文	堀 口 幸	森 住 博
	上 月 佳 代		
(遺 作)	酒 井 博 司		

☆ 彫 刻

(特別出品)	河 崎 良 行		
(招 待)	佐 藤 隆 作	大 津 文 昭	濱 口 惠
	井 下 俊 代	鎌 田 邦 宏	松 永 勉
(無 鑑 査)	上 月 佳 代		

(贊助出品) 長岡 強

☆ 美術工芸

(特別出品) 山上 馨

(招待) 七條 猪三郎 多智花 佐代子 松下 雄介  
松橋 介恵

松下 慶一

犬伏 絢

(贊助出品) 村上 正典

中川 存

(無鑑査) 齋藤 和彦

吉田 敏明

☆ 書道

(特別出品) 荒井 天鶴

(招待) 宮井 青雨 新居 藍州 上田 溪水  
成尾 莊秀 長原 皋聖 西 南龍

成尾 莊秀

前川 古舟

清水 桂月

清水 桂月

春藤 大耿

中川 史子

川上 虹泉

勝瀬 景流

日下 溪翠

近藤 静苑

竹田 和代

荒井 彭風

武市 鳴雲

藤若 美真

富久 鳴泉

佐藤 小園

坂本 霄風

島田 英二

松本 清香

隅田 乾香

薄田 玲泉

玉岡 晃祥

高田 青蓮

宇山 泰鳳

(贊助出品) 東 南光

(無鑑査) 亀石 文苑

佐原 和清

上田 溪水

西 南龍

芝原 醒鶴

美馬 幾美賀

長谷 美峰

三間 好鶯

岡島 順子

山口 華城

中尾 勝子

永松 春苑

浜佳 香

多田 清芳

能仁 華瑤

三浦 富美代

☆ デザイン

(特別出品) 坂本 三千一

(招待) 齋藤 繁次 坂野 美恵子

(贊助出品) 福井 章

(無鑑査) 敷島 のり子



## あ と が き

徳島県美術展（県展）も60回を迎えることができました。終戦後からはじめて、多くの方々がたずさわり、歴史をつくってきたわけですが、さらに今後この県展を県民のための総合美術展としていかに育てていくかが大切かも知りません。60回を記念して初めて鑑賞者の方々がどのように鑑賞していただいているのか、投票をしていただきましたところ、第1期（日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・デザイン）で延べ11,222点への投票、第2期（書道）で延べ2,537点への投票がありました。県民から暖かい目で作品が鑑賞されていることが、ひしひしとわかってまいりました。

第14回放美展も定着して出品者も鑑賞者も年々増加の傾向にあることは、喜ばしいことでありますので、さらに底辺の拡大につとめ県民の美術文化向上につなげたいと存じます。

平成18年度は県郷土文化会館が耐震工事のため休館いたしますので、放美展は第15回展を平成19年度に開催することになりますが、第61回県展は会場を「アスティとくしま」に移して全部門が一会期で実施いたしますのでご期待いただきたいと思います。

例年のように各部長から各部の動向についてお書きいただきました。会員で是非掲載されたいという希望のある事項については各部長とご相談下さい。

年報の表紙は今回は日本画部の担当ということで西野和男さんから原画をご提供いただきました。

最後になりましたが、会員の皆様にはご健康に留意されまして、ますます創作活動に励まれますようご祈念いたします。どうぞこれからも美術家協会発展のために会員の皆様のお力ぞえをお願いいたします。

平成18年 3月

県美術家協会事務局

## 美 術 年 報 2006年

---

平成18年 3月29日 印刷

平成18年 3月31日 発行

編集者 清 水 博  
装幀者 西 野 和 男  
発行人 佐 野 比呂志  
印刷所 原田印刷出版株式会社  
発行所 徳島県美術家協会  
(徳島市名東町 1丁目246 清水方)

---

